

一般市民調査結果

1 調査結果の見方

(1) 標本誤差

この調査（市民意識調査）では、1,012人の市民に協力をいただき回答結果を得ていますが、これがどの程度の精度を持った回答結果であるのかを示す指標として「標本誤差」があります。

この調査の標本誤差は以下の早見表のとおりです。

この表の見方は、例えば、「ある設問の回答者数が1,000人あり、その設問中の選択肢の回答比率が90%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±1.89%以内（88.11%～91.89%）である」となります。

標本誤差早見表

回答比率 (P) \ 回答者数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,000人	±1.33	±178	±2.03	±2.17	±2.22
1,000人	±1.89	±2.52	±2.89	±3.09	±3.15
700人	±2.26	±3.02	±3.45	±3.69	±3.77
400人	±3.00	±3.99	±4.58	±4.89	±4.99

(2) 留意点

ア 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が100.0%にならないことがあります。

イ 基数となる実数はnとして掲載し、各グラフの比率はnを母数とした割合を示しています。

ウ 基数となる実数(n)は、特に記述のない限り、回収数で示しています。

エ 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。

オ 一部のグラフについて、集計をする上で「無回答」を省略しているものがあります。

カ 1人の回答者が複数回答する設問では「複数回答」と表示しています。この場合、その比率の合計は100.0%を上回ることがあります。

2 回答状況

調査依頼(標本数)及び回答状況についての詳細は次の表のとおりです。

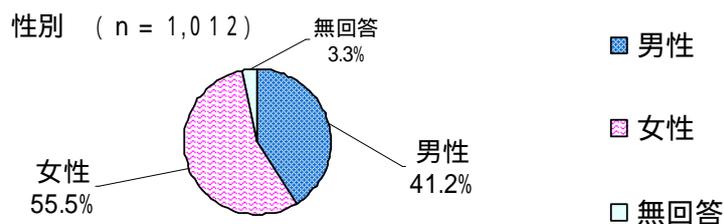
区分		母集団数 (人)	構成比 (%)	標本数 (件)	回収数 (件)	回収率 (%)
市全体		153,507		3,000	1,012	33.7
性別	男性	77,780	50.7	1,514	417	27.5
	女性	75,727	49.3	1,486	562	37.8
	無回答				33	
年齢別	20～29歳	19,278	12.6	500	93	18.6
	30～39歳	24,510	16.0	500	144	28.8
	40～49歳	21,345	13.9	500	158	31.6
	50～59歳	17,503	11.4	500	164	32.8
	60～69歳	21,518	14.0	500	235	47.0
	70歳以上	18,524	12.1	500	188	37.6
	無回答				30	
居住地別	小牧小学校区	13,136	8.5	207	62	30.0
	村中小小学校区	7,716	5.0	154	47	30.5
	小牧南小学校区	12,310	8.0	254	68	26.8
	三ツ淵小学校区	5,721	3.7	121	45	37.2
	味岡小学校区	14,328	9.3	181	92	50.8
	篠岡小学校区	7,239	4.7	141	48	34.0
	北里小学校区	10,652	6.9	217	56	25.8
	米野小学校区	14,354	9.4	278	88	31.7
	一色小学校区	9,417	6.1	279	62	22.2
	小木小学校区	6,329	4.1	132	49	37.1
	小牧原小学校区	11,839	7.7	230	68	29.6
	本庄小学校区	10,325	6.7	205	69	33.7
	桃ヶ丘小学校区	8,160	5.3	156	57	36.5
	陶小学校区	4,150	2.7	87	30	34.5
	光ヶ丘小学校区	9,099	5.9	192	70	36.5
	大城小学校区	8,728	5.7	166	56	33.7
	無回答				45	
地区別	小牧地区	53,237	34.7	1,014	310	30.6
	味岡地区	45,909	29.9	895	291	32.5
	篠岡地区	37,376	24.3	742	261	35.2
	北里地区	16,981	11.1	349	105	30.1
	無回答				45	

回答者の属性について、性別、年齢、居住地別の割合は以下のとおりです。

(1) 性別

F 1 あなたの性別をお答えください。

回答者の性別は、「男性(41.2%)」、「女性(55.5%)」となっています。



また、調査依頼数と回収数からみた回収率は、男性が 27.5%、女性が 37.8%と

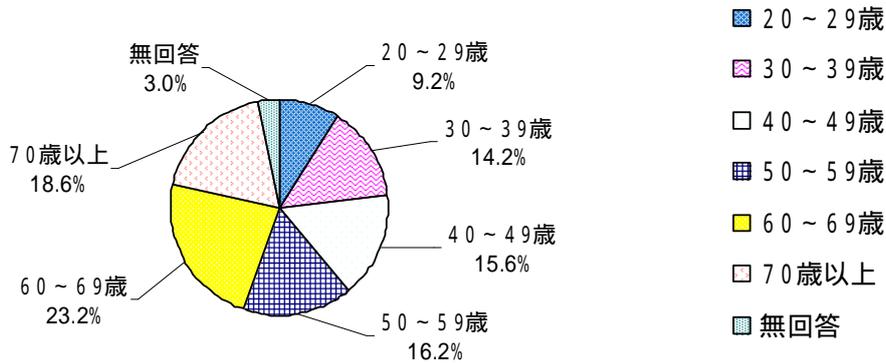
なっています。

(2) 年齢

F 2 あなたの年齢をお答えください。

年齢は、「60～69歳(23.2%)」の割合が最も高く、次いで「70歳以上(18.6%)」、「50～59歳(16.2%)」、「40～49歳(15.6%)」が高く、「20～29歳(9.2%)」の割合が1割未満と最も低くなっています。

年齢別 (n = 1,012)

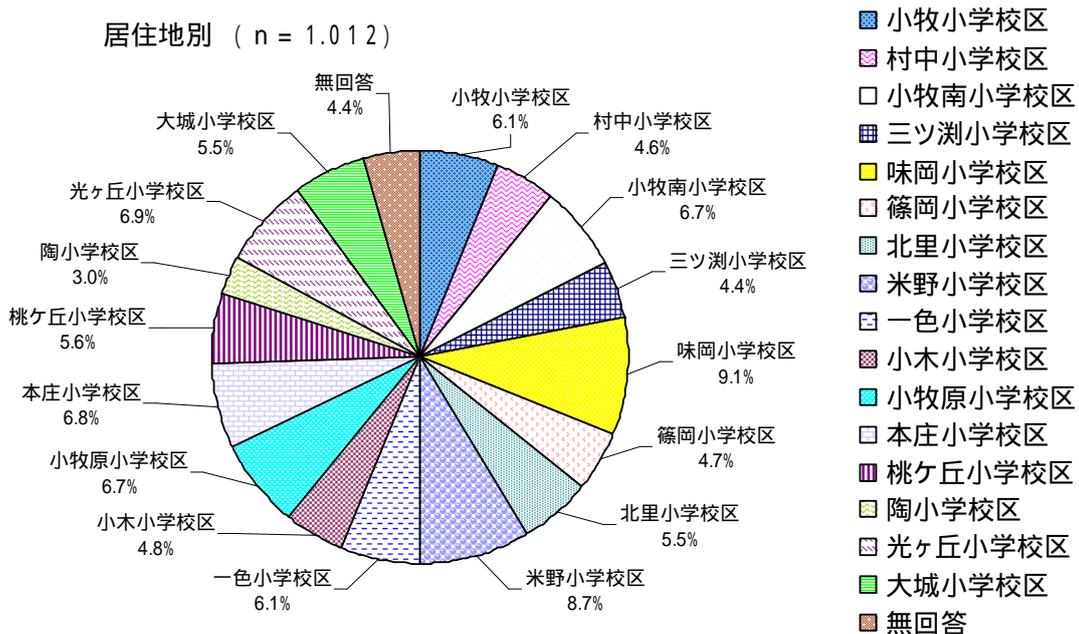


(3) 居住地

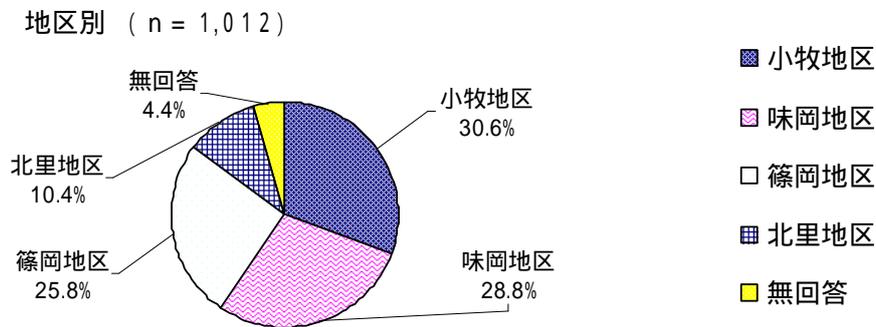
F 3 あなたのお住まいは、どの小学校区ですか。

居住地区は、「味噌小学校区(9.1%)」、「米野小学校区(8.7%)」、「光ヶ丘小学校区(6.9%)」、「本庄小学校区(6.8%)」、「小牧南小学校区(6.7%)」、「小牧原小学校区(6.7%)」となっています。

居住地別 (n = 1,012)



市内の四地区別でみると、「小牧地区(30.6%)」が高く、次いで「味岡地区(28.2%)」、「篠岡地区(25.8%)」、「北里地区(10.4%)」となっています。



3 調査結果

(1) 現在の生涯学習活動の状況

生涯学習の認知度

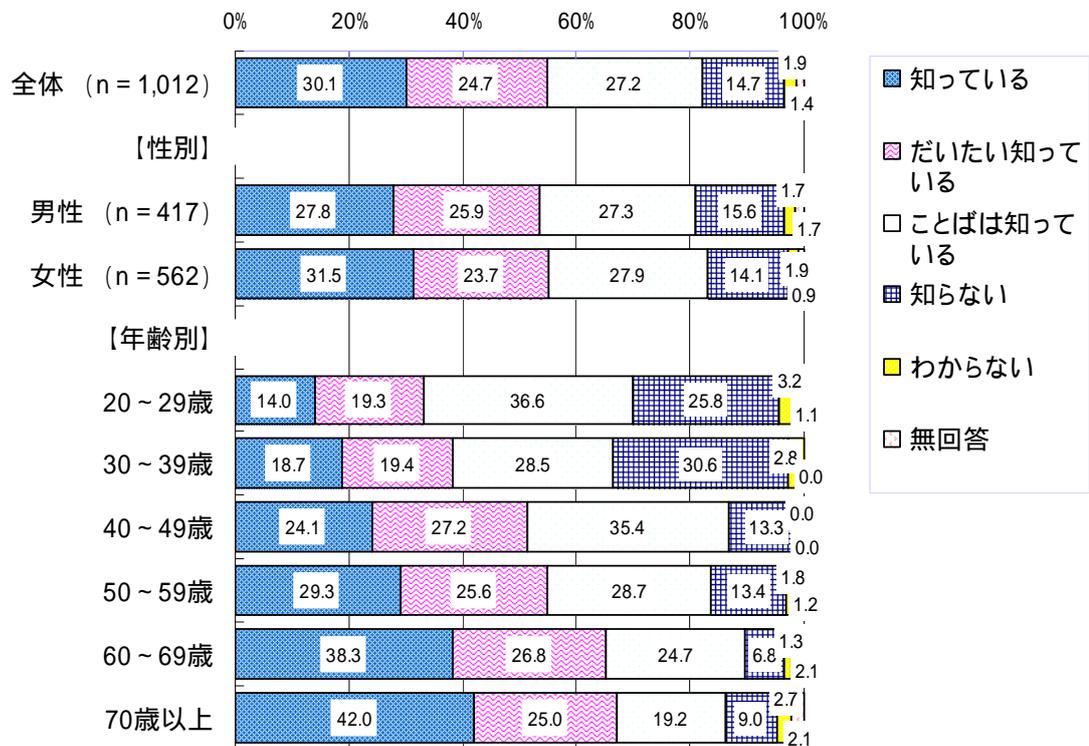
問1 あなたは、「生涯学習」について知っていますか。

「生涯学習」については、全体として55%の人が知っていると答えています。

「ことばは知っている」まで含めると8割以上になります。

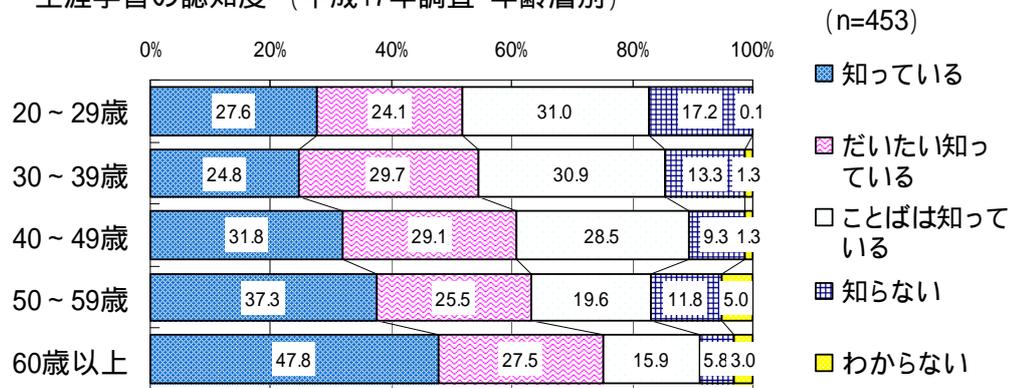
年齢別にみると、年齢が高くなる方が「生涯学習」についての認知度が高くなっています。

生涯学習の認知度 (全体・男女・年齢層別)



今回の調査では、生涯学習の認知度（「知っている」と「だいたい知っている」の計）が全体的に前回調査（平成17年調査）より低くなっており、特に、20代の認知度が大きく（18.4ポイント）減少しています。

生涯学習の認知度（平成17年調査・年齢層別）



生涯学習活動の状況

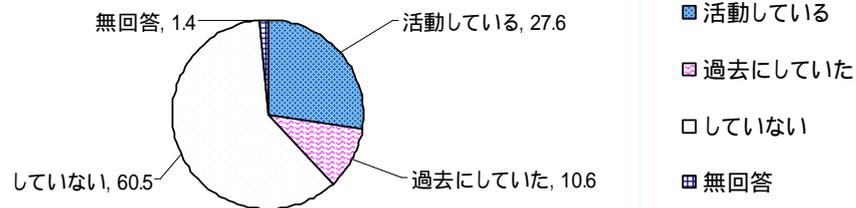
問2 あなたは、この1年間に生涯学習に関する活動を行っていましたか。

1年間で生涯学習活動をしたことがある人は、全体で約4割です。

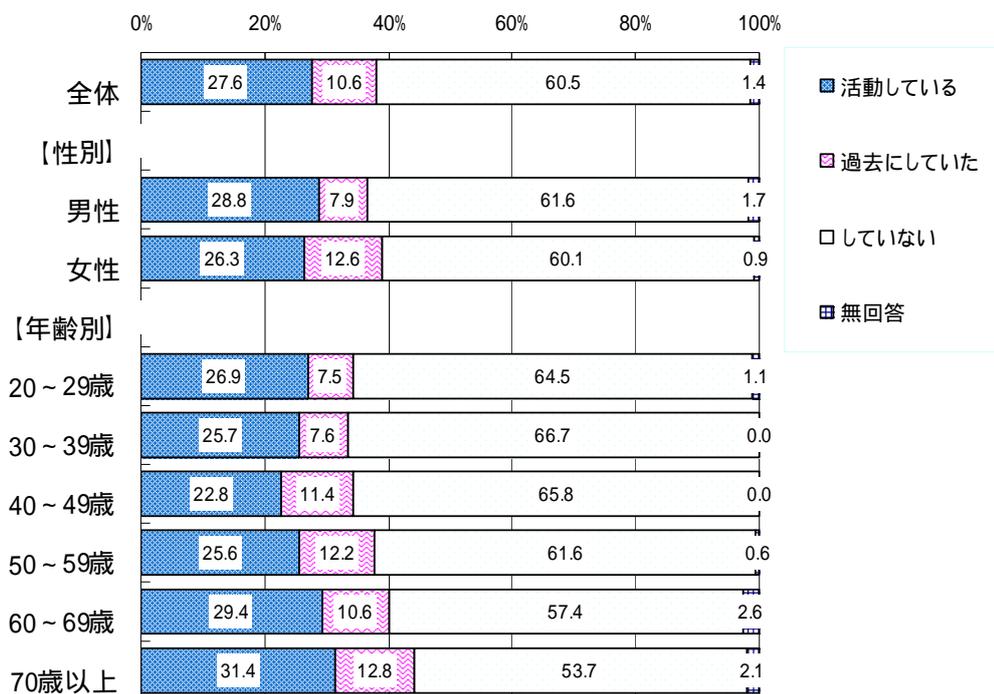
性別では、男性が「活動している(28.8%)」と「過去にしていた(7.9%)」の計が36.7%、女性が38.9%とあまり差はみられません。

年齢別で見ると、20代から30代にかけて「活動している・過去にしていた」が低く、30代(33.3%)が最も低くなり、反対に40代以上で年齢を重ねるごとに「活動している・過去にしていた」が高くなっています。70歳以上では最も高く44.2%の方が「活動している・過去にしていた」となっています。

生涯学習の活動状況

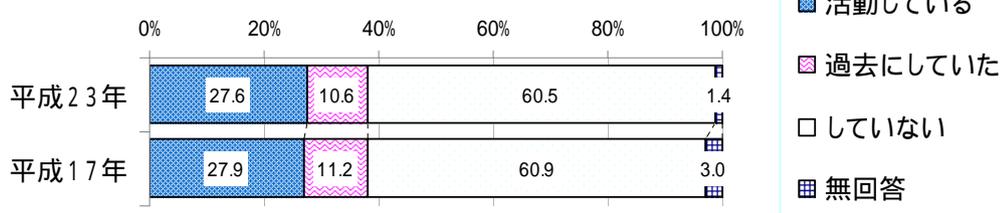


生涯学習活動の状況（全体・性別・年齢別）



1年間の生涯学習の活動状況については、前回調査（平成17年）と比較して大きな変化はみられません。

生涯学習の活動状況（比較）



生涯学習活動の内容

問2で「ア 活動している」「イ 過去にしていた」と回答された方に質問

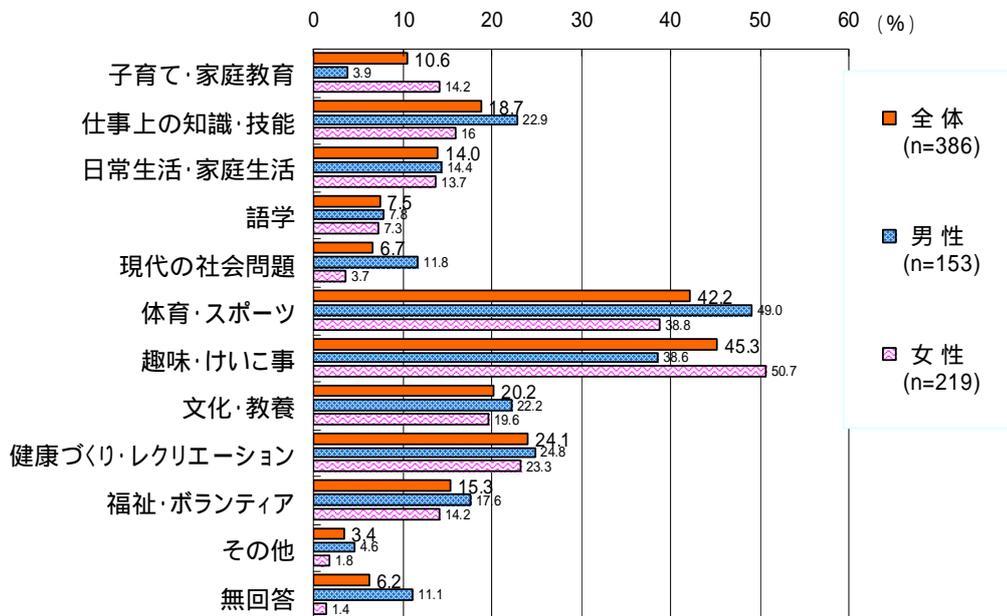
問3 あなたが、活動している生涯学習に関する活動の内容はどのようなものですか。（複数回答）

生涯学習活動への参加状況については、「趣味・けいこ事(45.3%)」、「体育・スポーツ(42.2%)」が4割を超え高く、続いて「健康づくり・レクリエーション(24.1%)」、「文化・教養(20.2%)」となっています。

性別による違いをみると、男性は、「体育・スポーツ」、「現代の社会問題」、「仕事上の知識・技能」に6.9～10.2ポイント高く、女性は、「趣味・けいこ事」

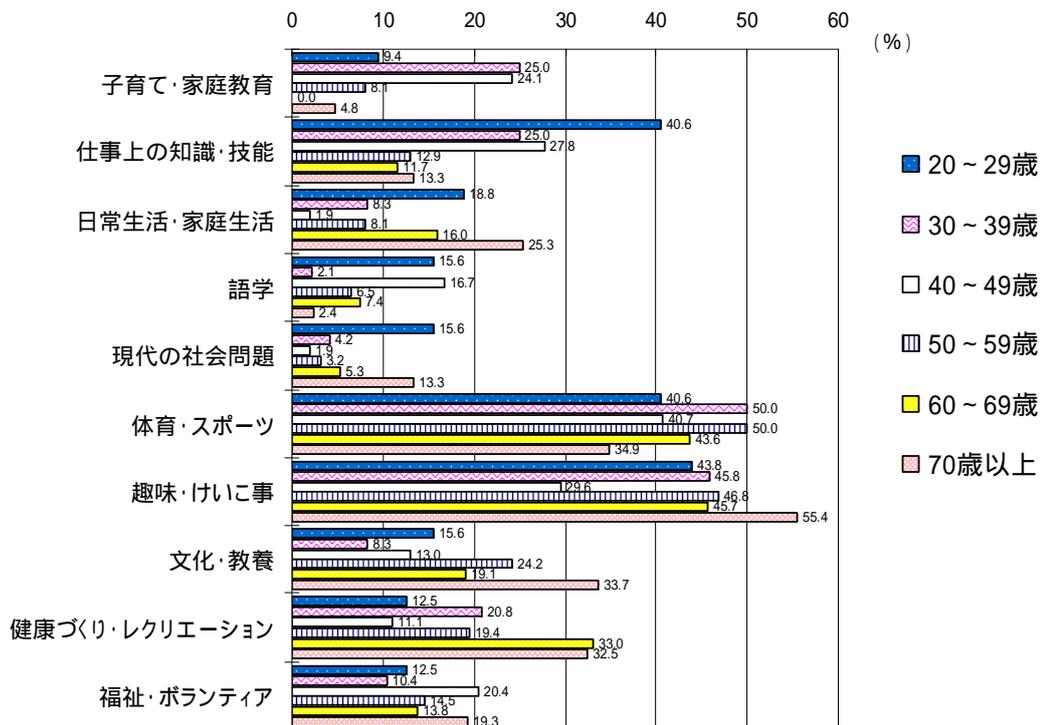
に12.1ポイント高くなっています。また、男性は、「子育て・家庭教育(3.9%)」に関わる人が極端に低く。女性は、「現代の社会問題(3.7%)」に関心が低い傾向があらわれています。

生涯学習活動の内容 (全体・性別)



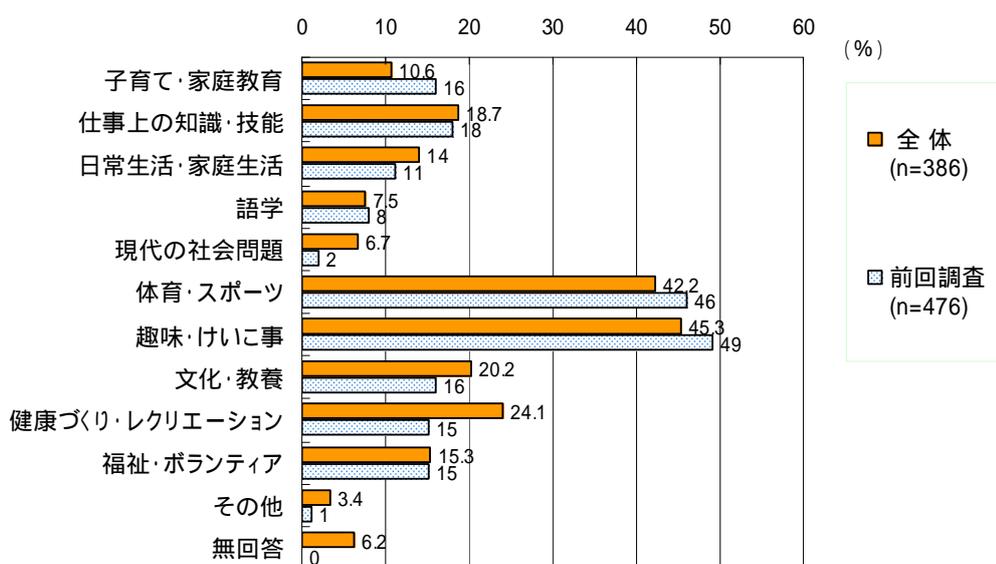
年齢別では、「趣味・けいこ事」、「健康づくり・レクリエーション」、「文化・教養」などの学習に、年齢が高い世代で高く、「仕事上の知識・技能」の学習に年代が低いほど割合が高い傾向にあります。また、70歳以上で「趣味・けいこ事」が55.4%と高く、20～29歳で「仕事上の知識・技能」が40.6%と、他の年代に比べかなり高くなっています。

生涯学習活動の内容（年齢別）



生涯学習活動の内容の傾向としては、前回（平成 17 年）と比較して同様の傾向がみられており、「体育・スポーツ」、「趣味・けいこ事」が、それぞれ4割を超え高くなっています。しかし、今回の調査では、「健康づくり・レクリエーション」について約9ポイントの上昇がみられます。

生涯学習活動の内容（比較）



生涯学習活動への参加状況

問2で「ア 活動している」「イ 過去にしていた」と回答された方に質問

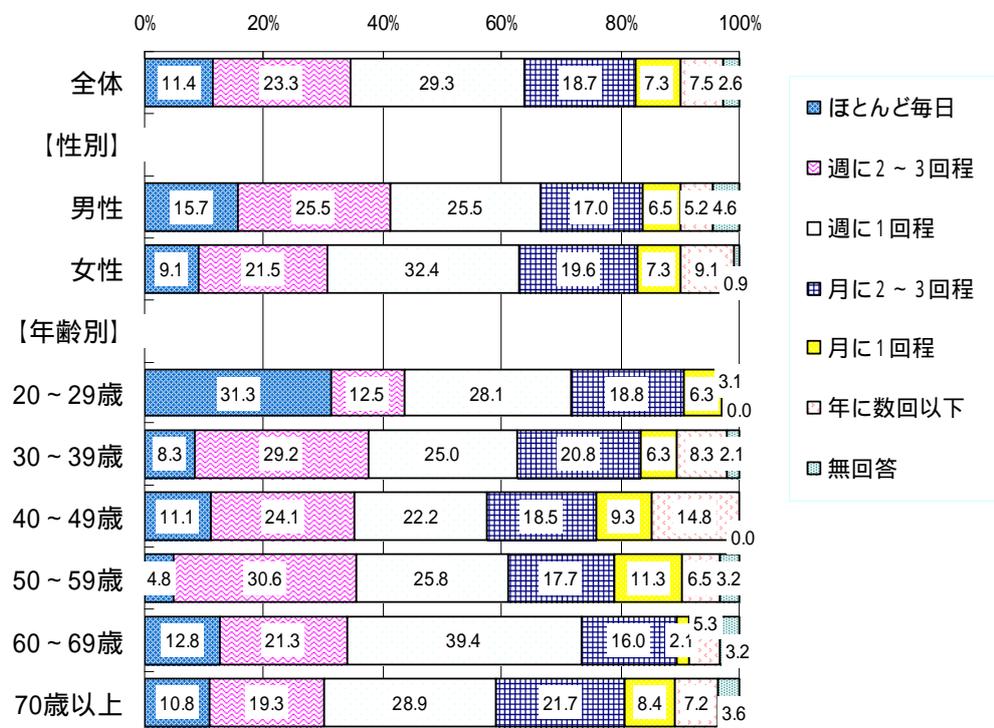
問4 あなたがおこなっている生涯学習に関する活動の回数についておたずねします。

生涯学習活動への参加状況については、「週に1回程(29.3%)」が最も多く、次いで「週に2~3回程(23.3%)」となっています。「ほとんど毎日(11.4%)」をあわせると、生涯学習活動をしている人のうち6割以上は週1回以上の活動をしていることがわかります。

性別にみると、男性のほうが、「ほとんど毎日(15.7%)」「週に2~3回程(25.5%)」と答えた人の割合が多く、一方で女性のほうが「週に1回程(32.4%)」「月に2~3回程(19.6%)」と答えた人の割合が多くなっています。教室や習い事などは週1回など定期的に行われることが多く、性別により、活動の内容や形態、関わり方が異なることが推測されます。

年齢別にみると、20~29歳は「ほとんど毎日(31.3%)」と答えた人の割合が最も高く、60~69歳は「週に1回程(39.4%)」と答えた人の割合が最も高くなっています。生涯学習活動に参加する頻度は、年齢が上がるにつれ、少なくなる傾向がうかがえます。

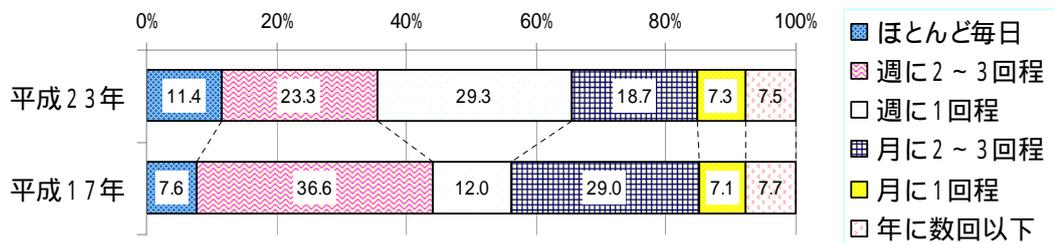
生涯学習活動への参加状況 (全体・性別・年齢別)



5年前と比べ、週に1回以上の生涯学習活動への参加状況は56.2%から64%に7.8ポイント増えています。生涯学習活動に参加する人の活動頻度は高くな

っていることがうかがえます。

生涯学習活動への参加状況（比較）



生涯学習活動の目的・動機

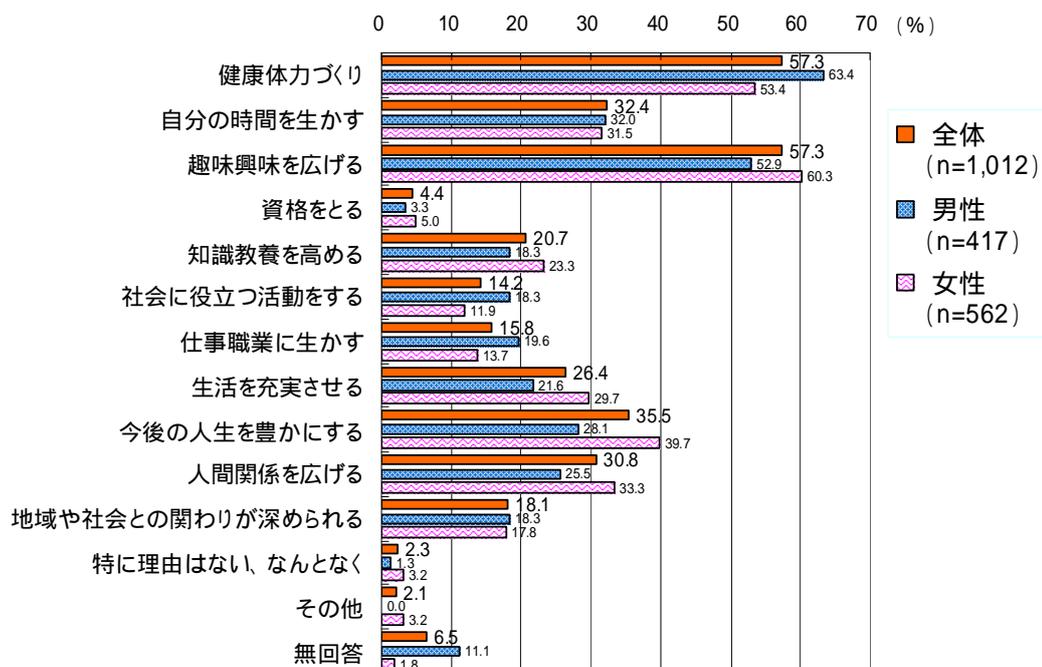
問2で「ア 活動している」「イ 過去にしていた」と回答された方に質問

問5 あなたが、生涯学習に関する活動を行う目的や動機は何ですか。(複数回答)

生涯学習活動の目的・動機については、「健康・体力づくり(57.3%)」、「趣味・興味を広げる(57.3%)」が最も高く、次いで、「今後の人生を豊かにする(35.5%)」、「自分の時間を生かす(32.4%)」となっています。

性別にみると、男性は「健康・体力づくり(63.4%)」、女性は「趣味・興味を広げる(60.3%)」が最も高くなっています。また、男性は「社会に役立つ活動をする(18.3%)」、「仕事や職業に役立てる(19.6%)」が女性よりも数値が高く、女性は「今後の人生を豊かにする(39.7%)」、「人間関係を広げる(33.3%)」、「生活を充実させる(29.7%)」が男性よりも数値が高くなっています。

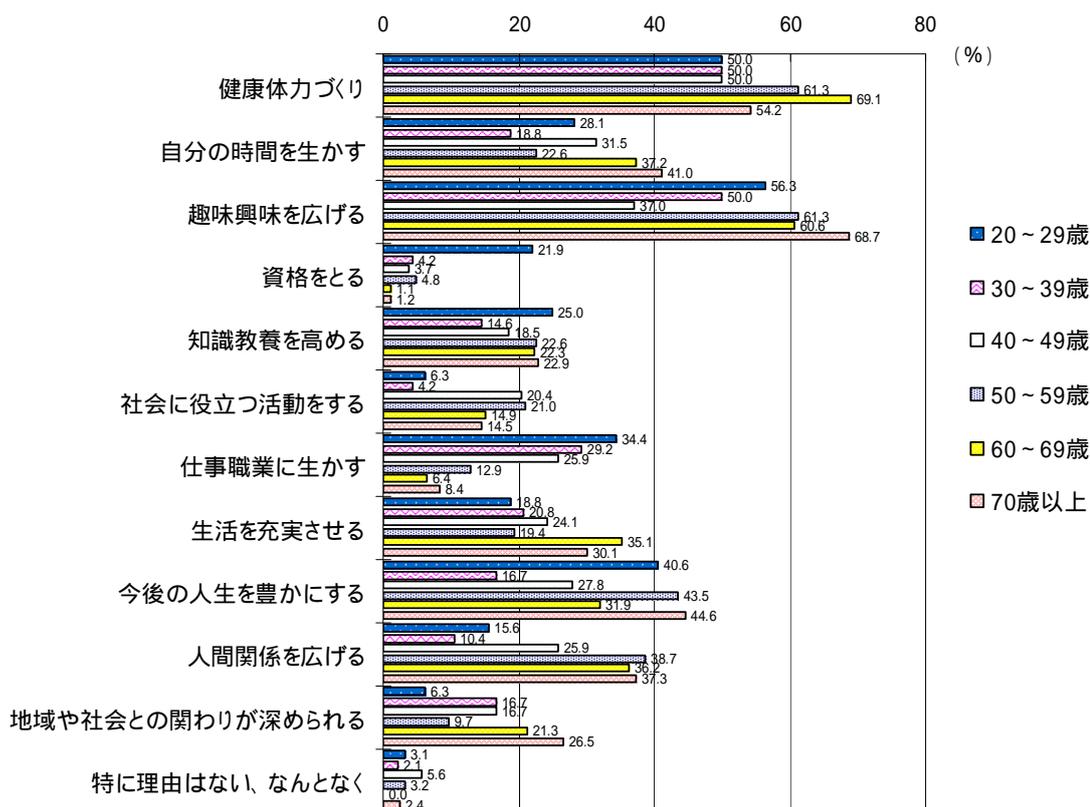
生涯学習活動の目的・動機（全体・性別）



年齢別にみると、「健康・体力づくり」が全ての年代において5割以上を占めており、「趣味・興味を広げる」も全体的に高い割合になっています。

「資格をとる」は、20～29歳においては21.9%であるのに対し、他の年代においては5%を下回っています。「社会に役立つ活動をする」については、20～39歳の年代に比べ、40歳以上の年代の数値が比較的高くなっており、年代によって、意識に違いがあることがうかがえます。

生涯学習活動の目的・動機（年齢別）



生涯学習活動による成果の活用方法

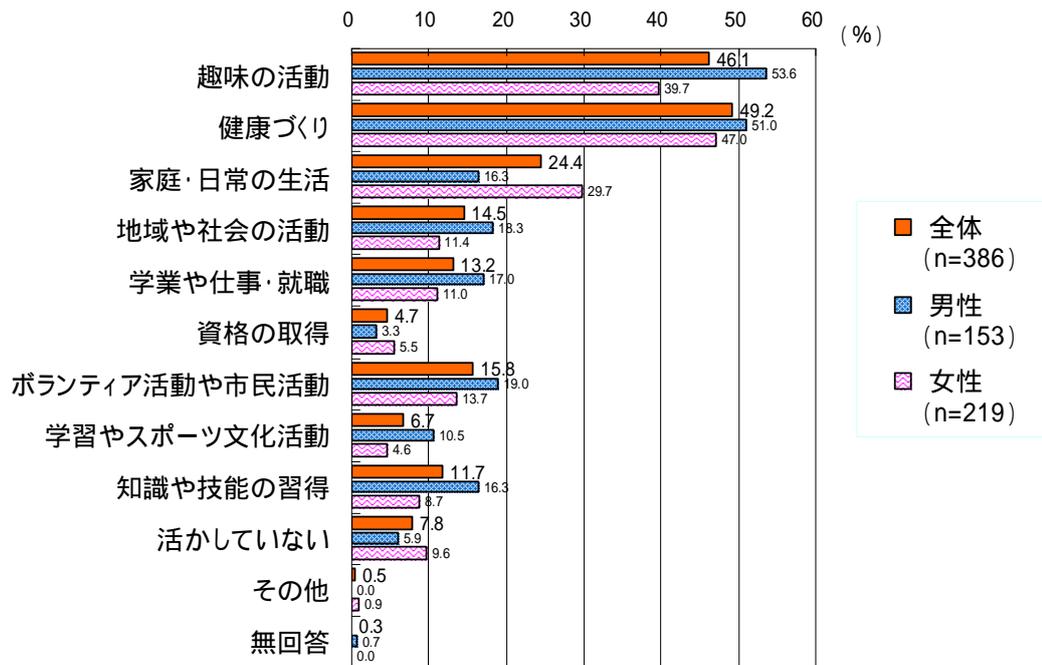
問2で「ア 活動している」「イ 過去にしていた」と回答された方に質問

問6 あなたは、生涯学習に関する活動で身につけた知識や技能をどのように活かしていますか。（複数回答）

生涯学習活動による成果の活用方法は、「健康づくり(49.2%)」が最も高く、次いで、「趣味の活動(46.1%)」、「家庭・日常生活(24.4%)」となっています。このような成果の活用は、個人の人生を充実したものになりたいという傾向が高いことがうかがえます。また、「ボランティア活動や市民活動(15.8%)」、「地域や社会の活動(14.5%)」、「学習やスポーツ・文化活動(6.7%)」などのように、直接自分自身ではなく、社会に働きかけることについても関心があることがうかがえます。

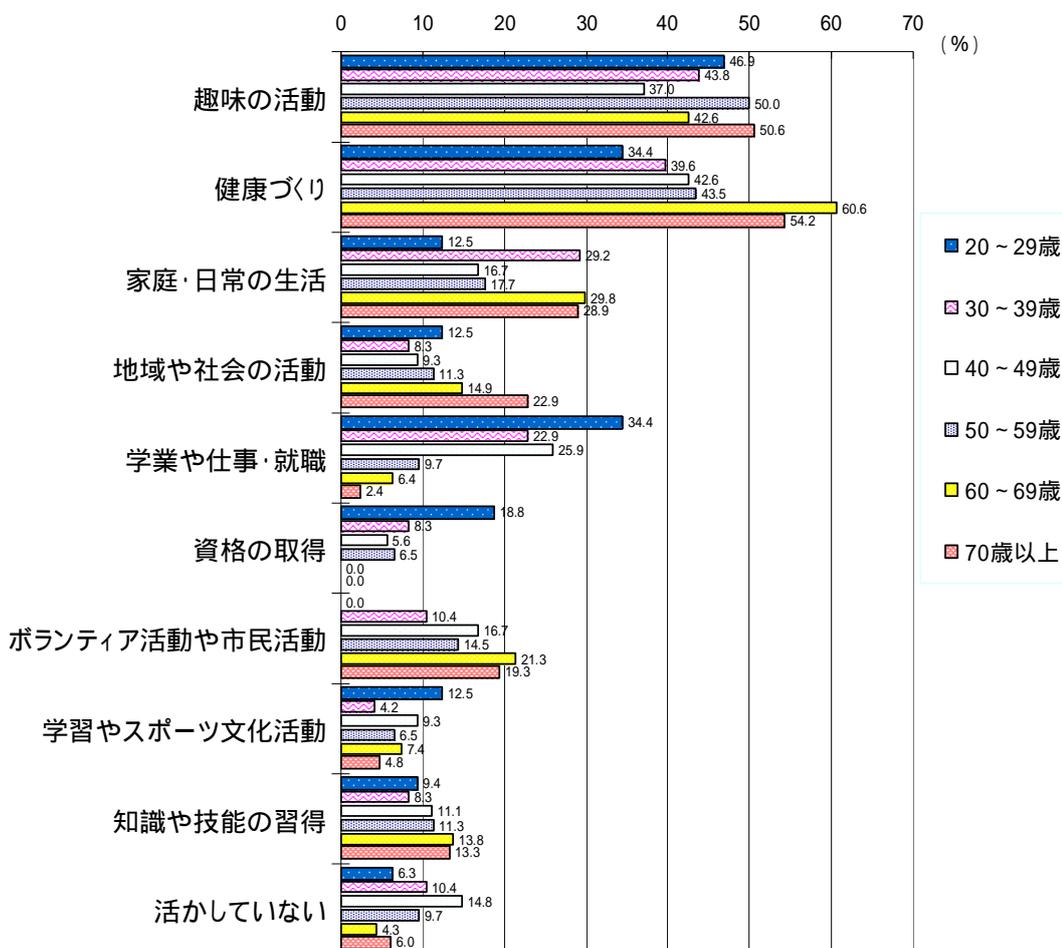
性別にみると、男性は「趣味の活動(53.6%)」、女性は「健康づくり(47.0%)」が最も高くなっています。また、男性は、「趣味の活動」、「知識や技能の習得」、「地域や社会活動」などが女性よりも6.9~13.9ポイント高く、女性は、「家庭・日常生活」が男性よりも13.4ポイント高くなっています。

生涯学習活動による成果の活用方法 (全体・性別)



年齢別にみると、「健康づくり」、「地域や社会の活動」は年齢を重ねるごとに高くなり、「学業や仕事・就職」、「資格の習得」は年齢を重ねるごとに低くなるなど、世代ごとに顕著な特徴があらわれています。

生涯学習活動による成果の活用方法（年齢別）



活用していない理由

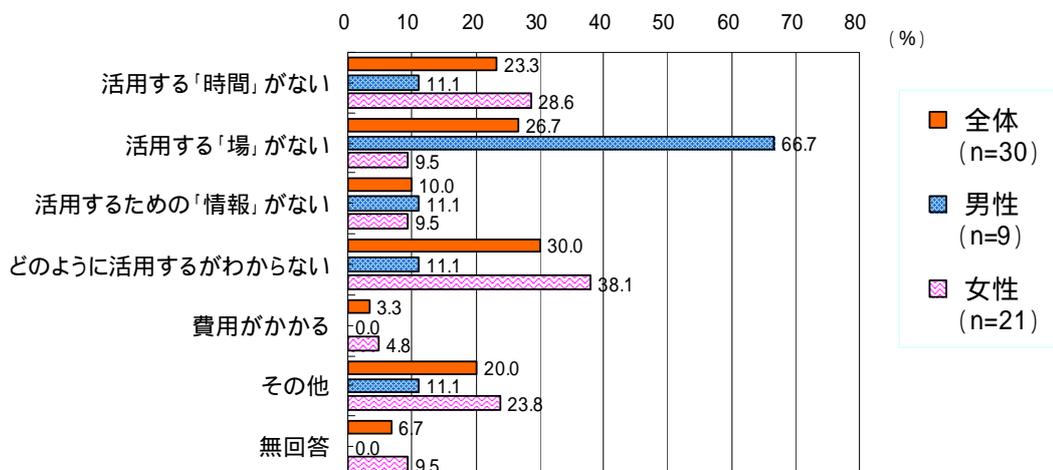
問6で「コ 活かしていない」と回答された方に質問

問7 活かしていない理由は何ですか。（複数回答）

身につけた知識や技能を「活かしていない」と答えた方の理由として、「どのように活用するかわからない(30.0%)」が最も高く、次いで、「活用する場がない(26.7%)」、「活用する時間がない(23.3%)」となっています。

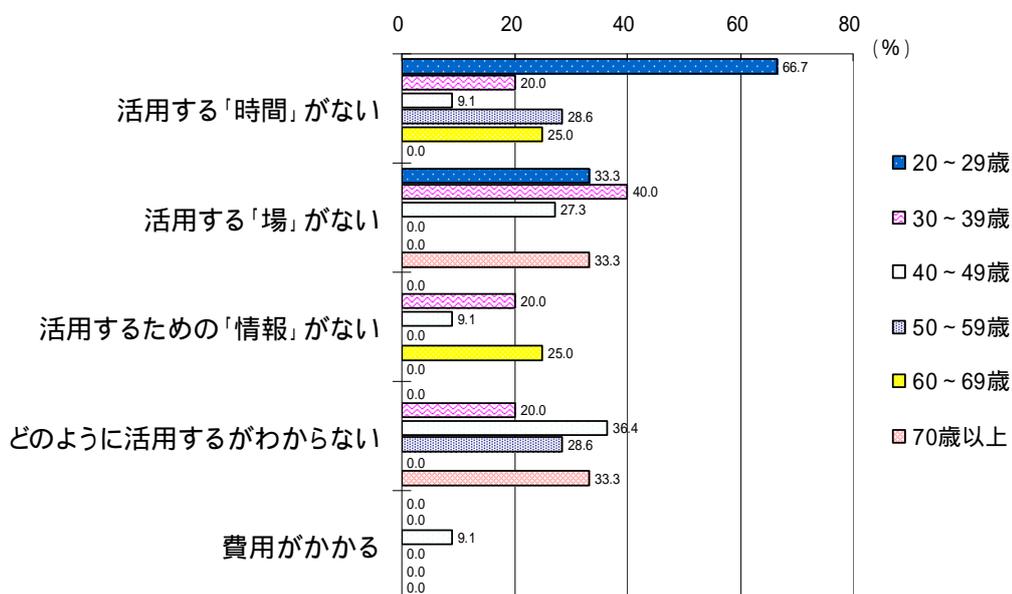
性別でみると、男性の多くは「活用する場がない(66.7%)」と答え、女性では、「どのように活用するかわからない(38.1%)」、「活用する時間がない(28.6%)」という回答が高くなっています

活用していない理由（全体・性別）



年齢別にみると、20～29歳においては「活用する時間がない」、30～39歳は「活用する場がない」、40～49歳は「どのように活用するかわからない」など年代によって意識に違いがあることがうかがえます。

活用していない理由（年齢別）



生涯学習活動の阻害要因

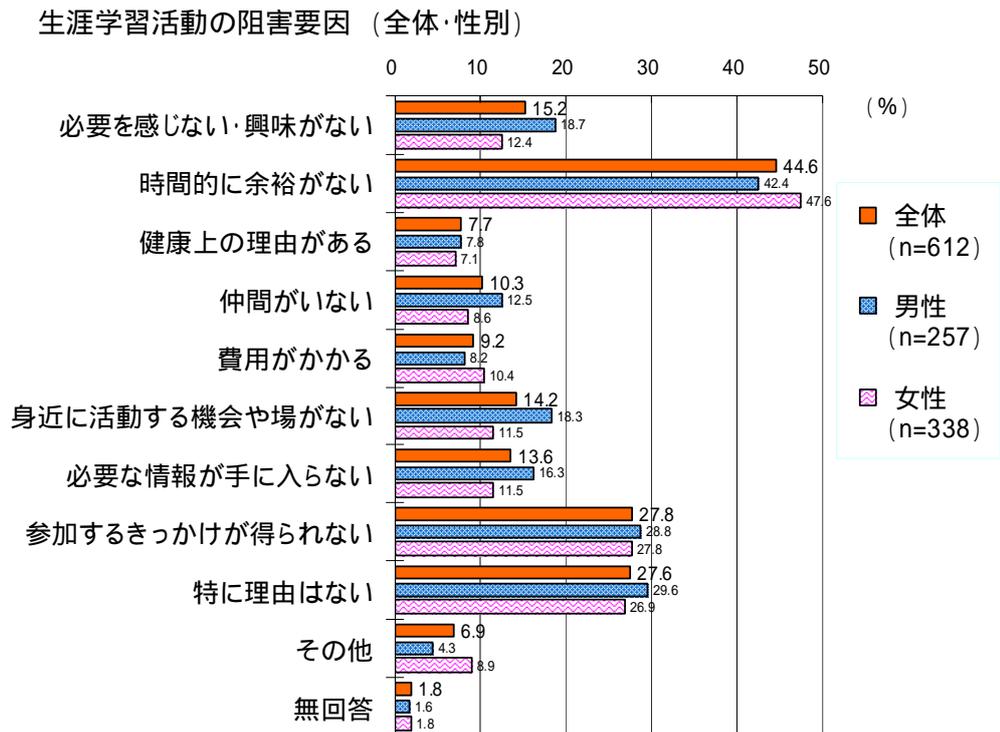
問2で「ウ していない」と回答された方に質問

問8 あなたが、生涯学習に関する活動をしていない理由は何ですか。（複数回答）

生涯学習活動に参加しなかった人の理由については、「時間的に余裕がない

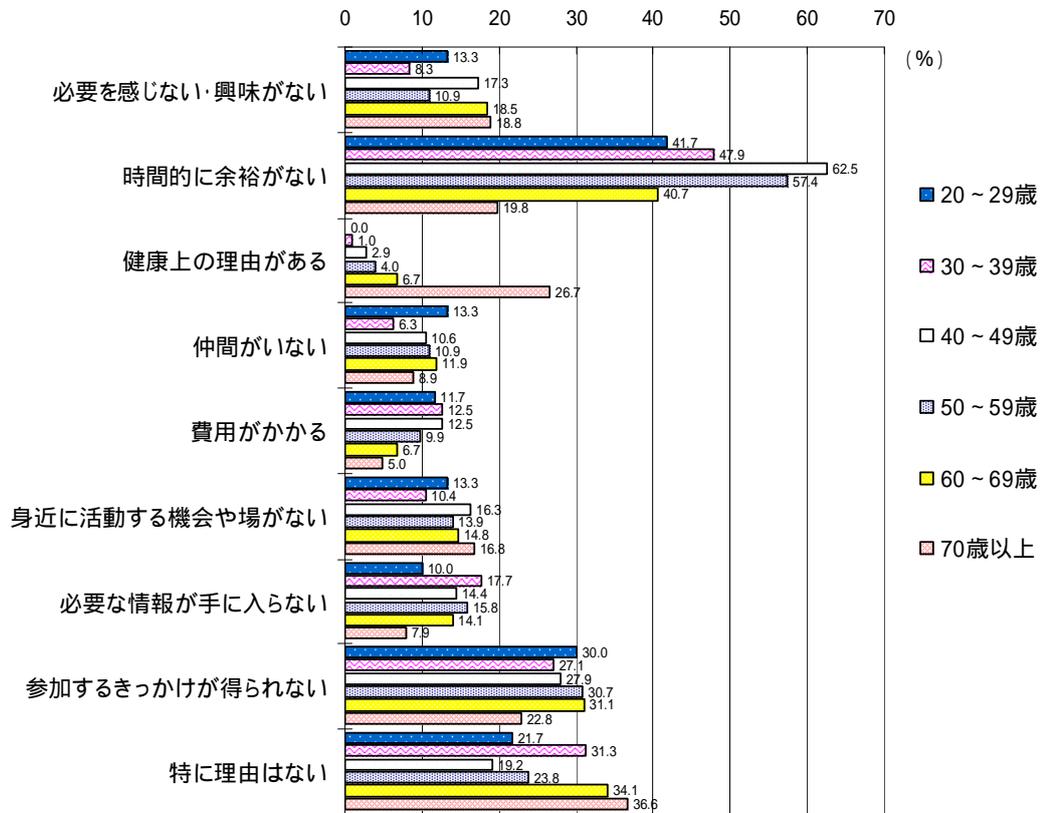
(44.6%)」が最も高く、次いで「参加するきっかけが得られない(27.8%)」、「特に理由はない(27.6%)」となっています。

性別にみると、男性、女性ともに「時間的に余裕がない(男性42.4%・女性47.6%)」が最も高くなり、全体的な傾向と変わらない傾向がうかがえます。



年齢別にみると、40～49歳・50～59歳では「時間的に余裕がない」が特に高く、5割以上をしめています。また、70歳以上では「健康上の理由がある」が全体より高く、一方、「必要な情報が手に入らない」、「時間的に余裕がない」が低くなっています。

生涯学習活動の阻害要因（年齢別）



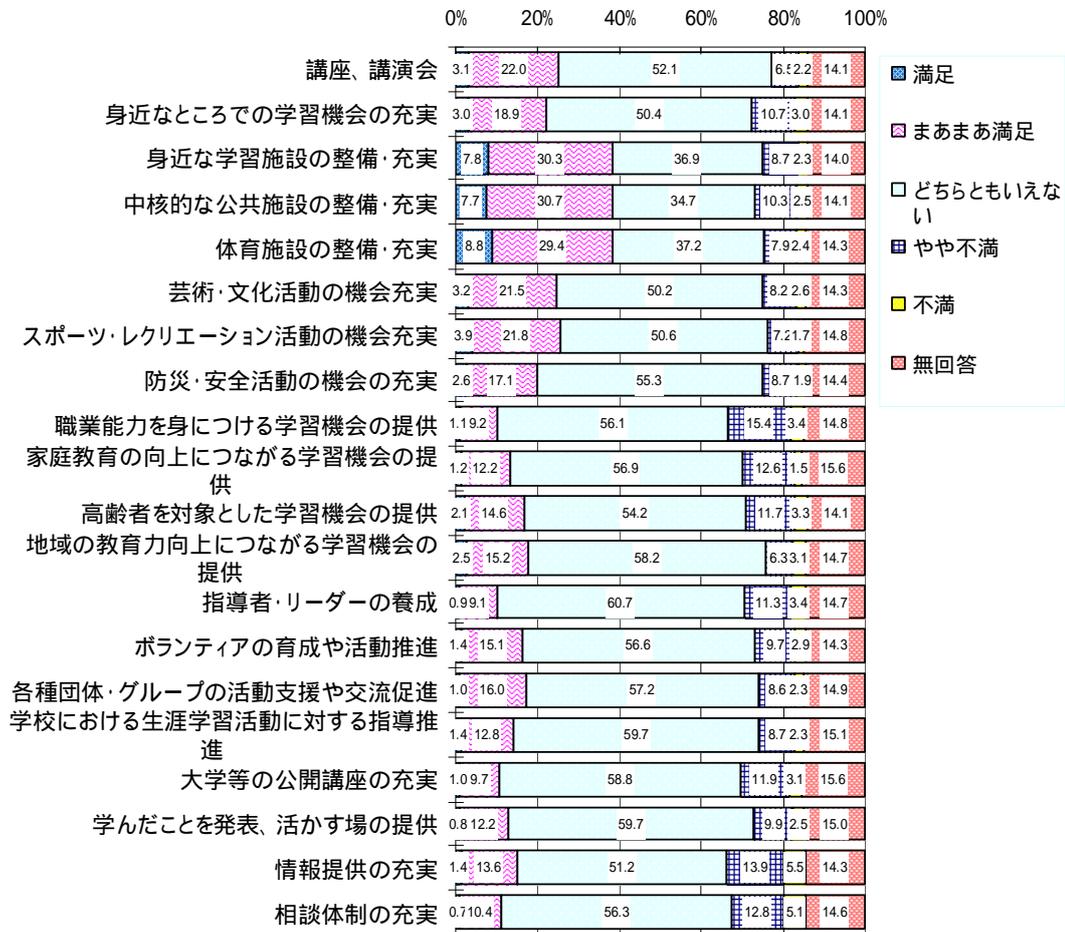
市の行っている施策についての現状の満足度

問9 「小牧市が行っている生涯学習の取り組み」について、あなたの『満足度』をおたずねします。

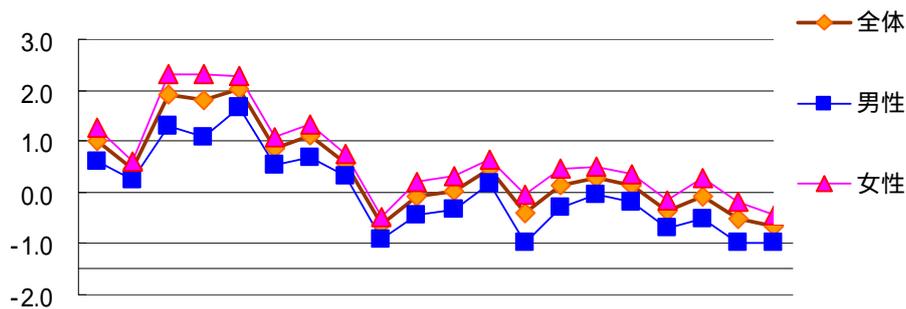
施策についての満足度について、満足度の高い施策は「身近な学習施設の整備・充実」、「中核的な公共施設の整備・充実」、「体育施設の整備・充実」などがあげられ、一方、低い施策は「職業能力を身につける学習機会の提供」、「指導者・リーダーの養成」、「大学等の公開講座の充実」、「相談体制の充実」があげられます。

性別にみると、生涯学習に関する各取組・施策に対する全体的な傾向は変わらず、それぞれの取組・施策に対する満足度は、すべての項目において女性の満足度が高くなっています。その差の大きい項目は、「公共施設の充実」、「身近な学習施設の設備・充実」などがあげられます。

施策の満足度 (n=1,012)



生涯学習に関する施策についての満足度



縦軸の数値について 取組・施策に対する「満足度」についての評価を一層明確化するため、次の算出方法により各取組・施策の「満足度指数」を設定し、前図のようにグラフ化しました。

$$\text{「満足度指数」} = \{ (\text{満足}) \times 10 + (\text{やや満足}) \times 5 + (\text{どちらともいえない}) \times 0 - (\text{やや不満}) \times 5 - (\text{不満}) \times 10 \} / \text{回答者数}$$

(2) 生涯学習活動に対する今後の意向

今後取り組みたい生涯学習活動の有無

問 10 今後（今後も）生涯学習に関する活動をしたいと思いますか。

生涯学習活動への参加意向について、「したいと思う人(47.3%)」は、「したいと思わない人(10.3%)」と比べ、4倍以上高くなっています。

ただ、前回調査で選択肢としてなかった「わからない」があったため、前回と比較すると「したい」「したいと思わない」という人がともに約20%減っており、「わからない」人が約40%います。

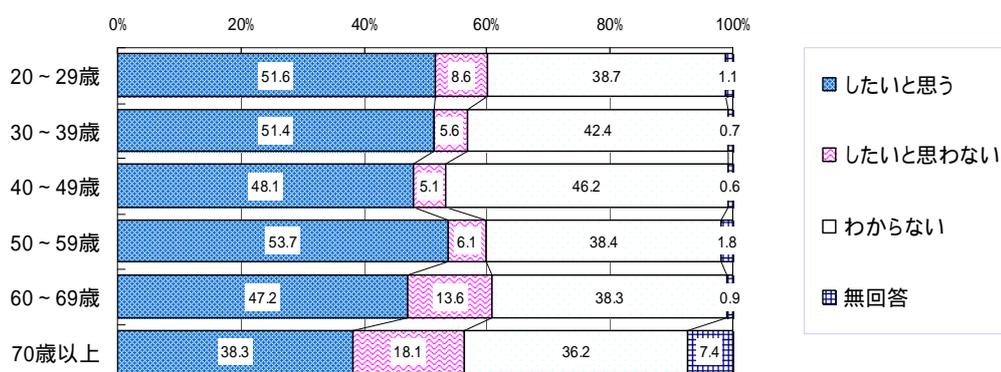
性別にみると、「したいと思う」人の割合で男性が3.8ポイント女性より高くなっています。

今後、取り組みたい生涯学習活動の有無（全体・性別）



年齢別にみると、「したいと思う」人の割合は50～59歳において53.7%と最も高くなっています。

今後、取り組みたい生涯学習活動の有無（年齢別）



取り組みたい生涯学習活動の内容
問 10 で「ア」と答えた方に質問

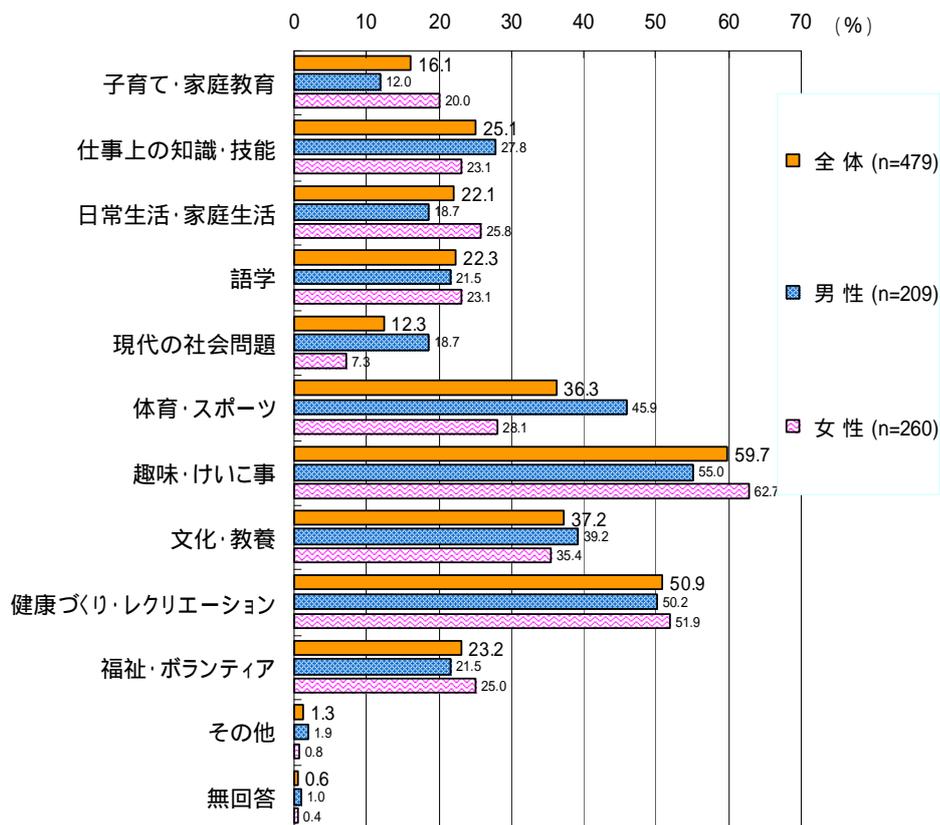
問 11 どんな内容の生涯学習をしたいと考えていますか。

生涯学習活動への参加意向については、「趣味・けいこ事(59.7%)」が最も高く、次いで、「健康づくり・レクリエーション(50.9%)」となっています。

性別にみると、男性、女性ともに「趣味・けいこ事(男性55.0%・女性62.7%)」が最も高く、全体的な傾向と変わらない傾向がうかがえます。

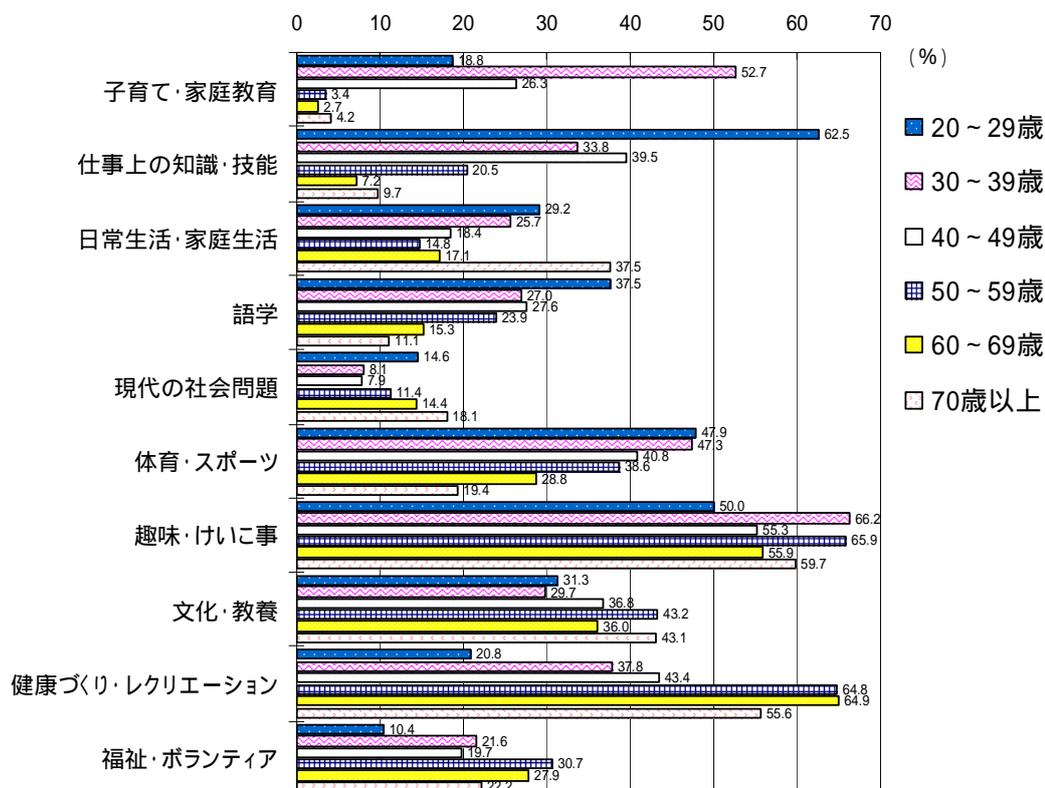
また、男性は「体育・スポーツ」、「現代の社会問題」が女性よりも10ポイント以上高く、女性は「日常生活家庭生活」、「子育て家庭教育」が男性よりも約8ポイント高くなっています。

取り組みたい生涯学習活動の内容 (全体・性別)



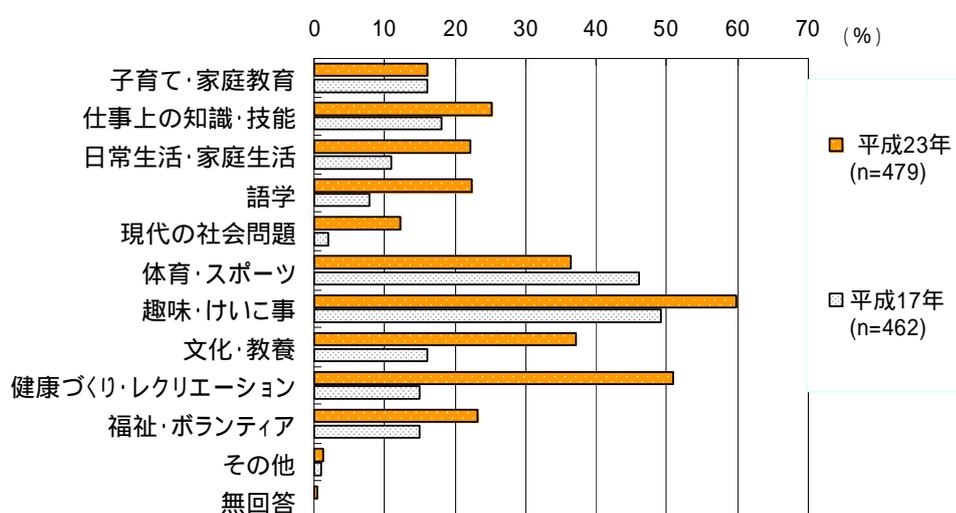
年齢別にみると、20～29歳は「仕事上の知識・技能(62.5%)」が最も高く、また、30～39歳は「子育て・家庭教育(52.7%)」が高い割合となっています。また、年代によって、「体育・スポーツ」や「語学」に対する参加意向は年代が高くなるにしたがい減少するなど、生涯学習に対する意識の違いがうかがえます。

取り組みたい生涯学習活動の内容（年齢別）



前回調査(平成17年)に比べ、取り組みたい活動内容として「趣味・けいこ事」が一番で同じでしたが、次に高かったものが、「体育・スポーツ」から「健康づくり・レクリエーション」に変わっています。健康志向が高まっている傾向にあることがうかがえます。

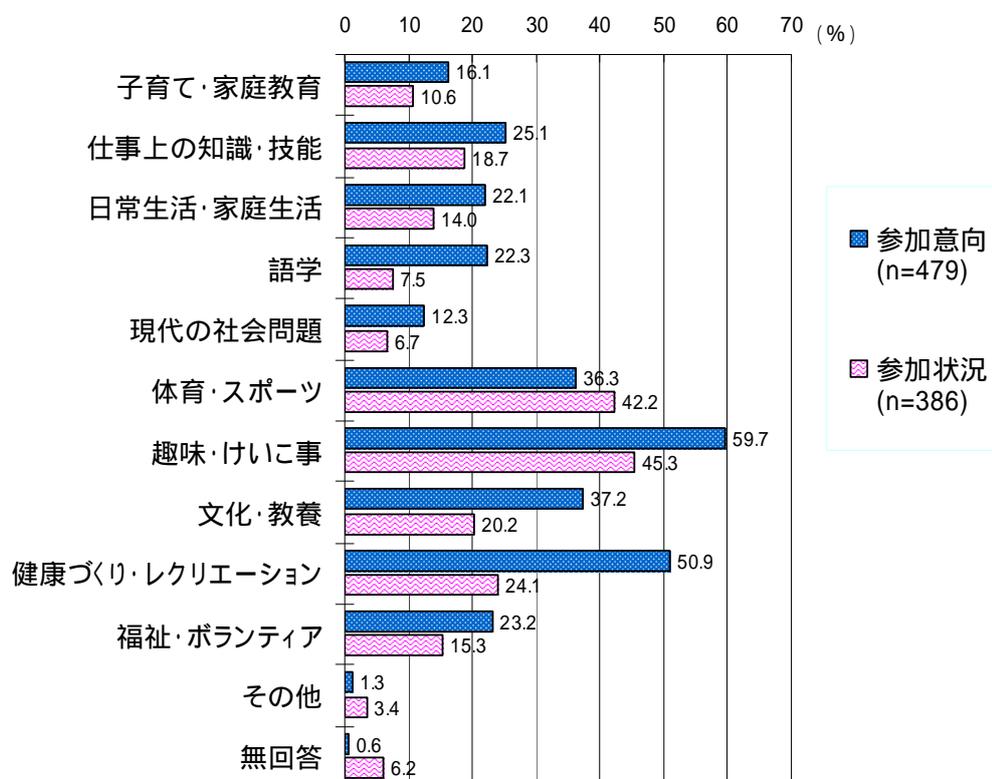
取り組みたい生涯学習活動の内容（比較）



また、『生涯学習活動への参加状況（問3）』と『取り組みたい生涯学習活動の内容（問11）』を比べてみると、「体育・スポーツ」の項目以外は、すべての生涯学習活動において、参加意向が参加状況を上回っていることから、今後の生涯学習活動への参加意向が高いことがうかがえます。

特に、「健康づくり・レクリエーション」、「趣味・けいこ事」、「文化・教養」、「語学」では参加意向が状況を大きく10ポイント以上高く、生涯学習活動への参加者の増加が見込まれます。

生涯学習活動への参加状況と参加意向（問3と問11より）



取り組みたい生涯学習活動の方法

問 10 で「ア」と答えた方に質問

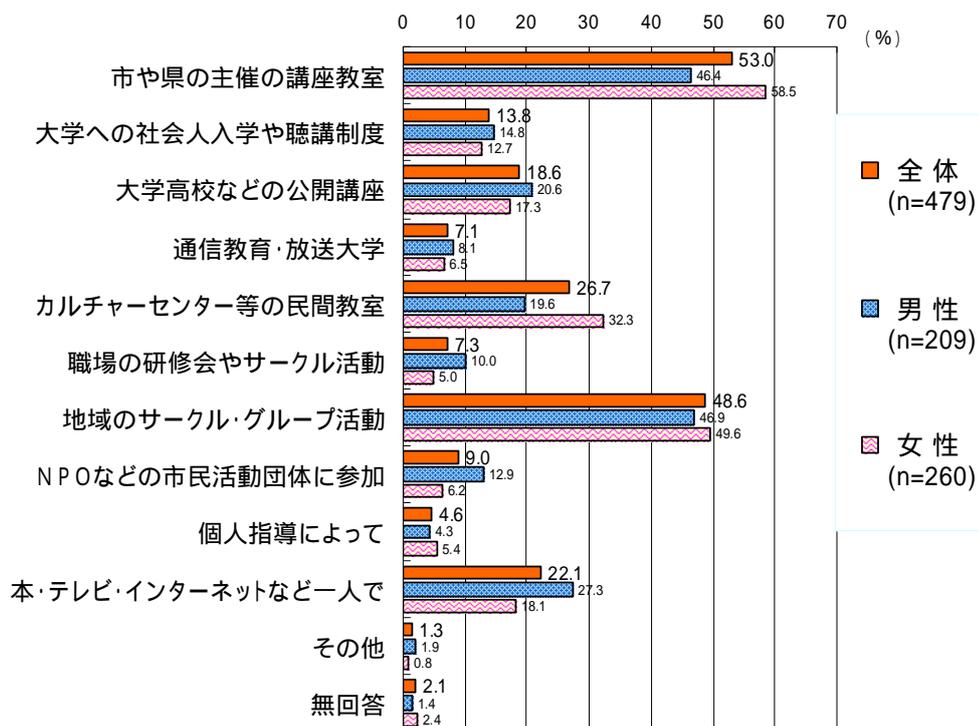
問 12 どんな方法で生涯学習をしたいと考えていますか。(複数回答)

今後、取り組みたい生涯学習の方法については、「市や県の主催の講座・教室(53.0%)」が最も高く、次いで、「地域のサークル・グループ活動(48.6%)」、「カルチャーセンター等の民間教室(26.7%)」となっています。

性別にみると、男性は「地域のサークル・グループ活動(46.9%)」、女性は「市や県の主催の講座教室(58.5%)」が最も高くなっています。

また、男性は「職場の研修会やサークル活動(10.0%)」、「本・テレビ・インターネットなど一人で(27.3%)」、「NPOなどの市民活動団体に参加(12.9%)」が女性より高く、女性は「カルチャーセンター等の民間教室(32.3%)」が男性よりも高くなっています。

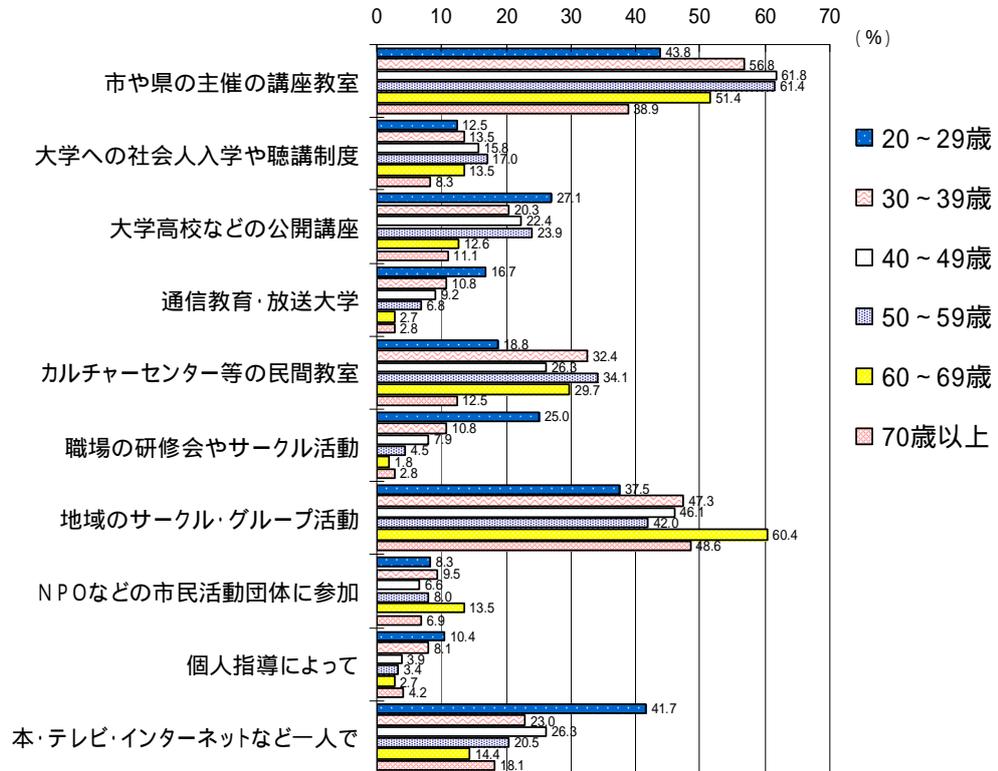
取り組みたい生涯学習活動の方法 (全体・性別)



年齢別にみると、60～69歳で「地域のサークル・グループ活動(60.4%)」が顕著に高く、20～29歳で「本・テレビ・インターネットなど一人で(41.7%)」、「職場の研修会やサークル活動(25.0%)」が高くなっています。

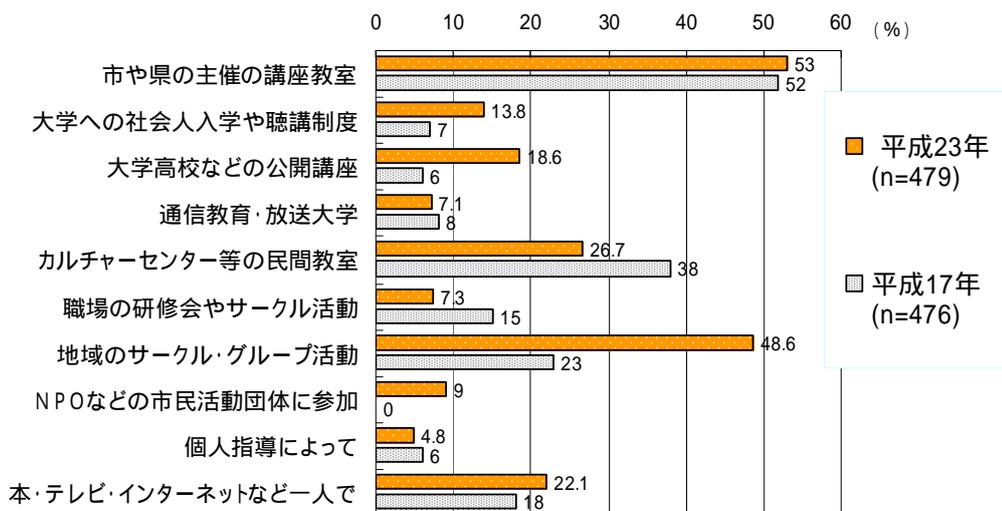
また、「通信教育・放送大学」、「職場の研修会やサークル活動」、「個人指導によって」学習したいと考える人は、年齢が上がるにつれて、割合が徐々に低くなっていく傾向がうかがえます。

取り組みたい生涯学習活動の方法（年齢別）



前回調査(平成17年)に比べ、「地域のサークル・グループ活動」や「大学・高校などの公開講座」によって学習活動に取り組みたいとする方の割合が高くなっています。

取り組みたい生涯学習活動の方法（比較）



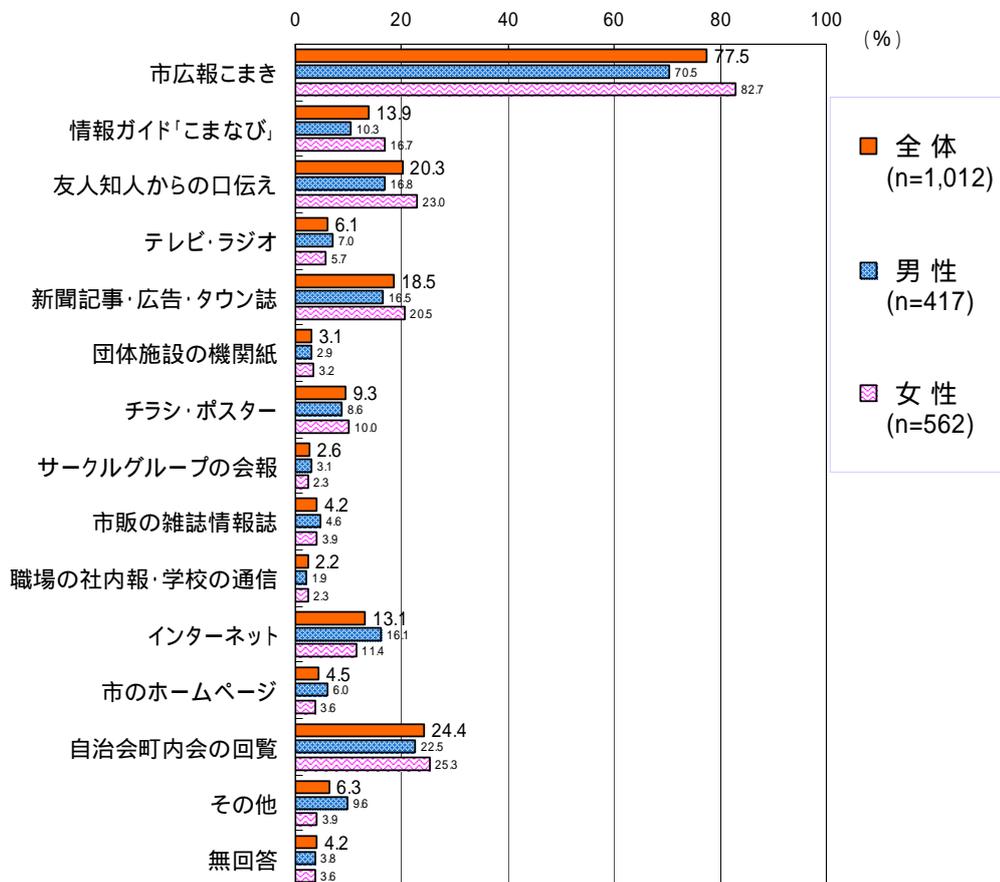
情報の入手方法

問 13 生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。(複数回答)

情報の入手方法は、「市広報こまき(77.5%)」が圧倒的に多く、次いで、「自治会町内会の回覧(24.4%)」、「友人知人からの口伝え(20.3%)」となっています。情報ガイド「こまなび」については、13.9%となっています。

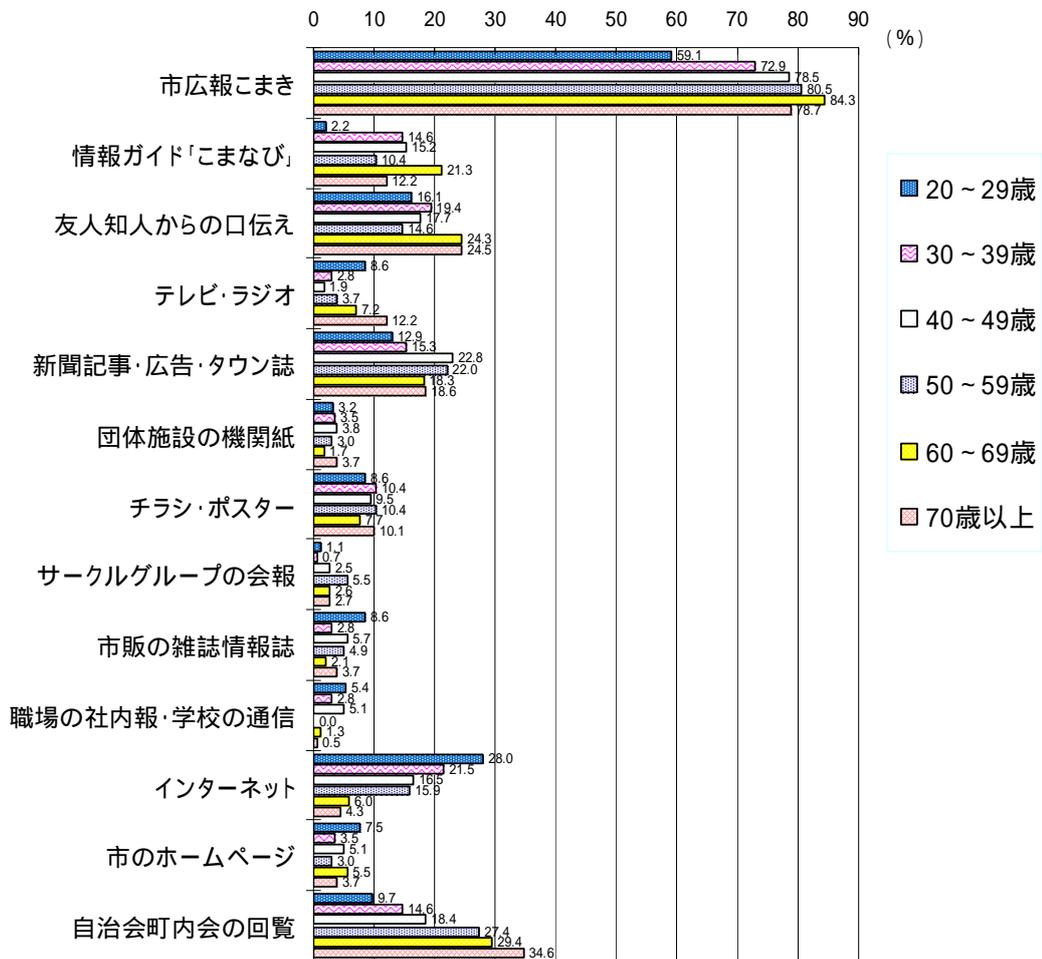
性別にみると、「市広報こまき(男性37.5%、女性59.3%)」、「友人知人からの口伝え(男性34.1%、女性62.9%)」については、女性の割合が高くなっています。

情報の入手方法 (全体・性別)



年齢別にみると、「市広報こまき」がすべての年代において59.1%~84.3%と高い割合を占めています。また、60~69歳が「情報ガイド「こまなび」(21.3%)」、「自治会町内会の回覧(34.6%)」と割合が高く、「インターネット」について、20~29歳が28.0%、30~39歳が21.5%、40~49歳が16.5%と若い世代に活用されている傾向がうかがえます。

情報の入手方法（年齢別）

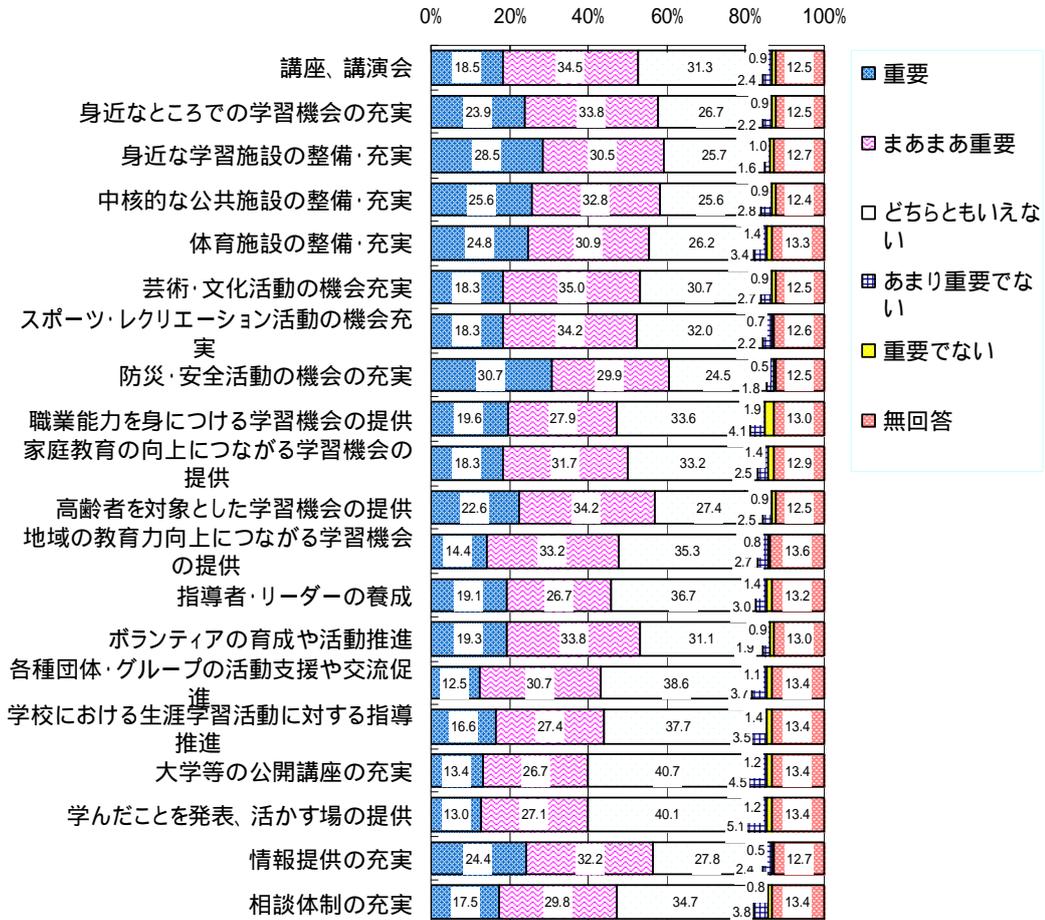


市の行っている施策についての今後の重要度

問 14 「小牧市が行っている生涯学習の取り組み」について、『今後、どれくらい重要になる』と考えていますか。

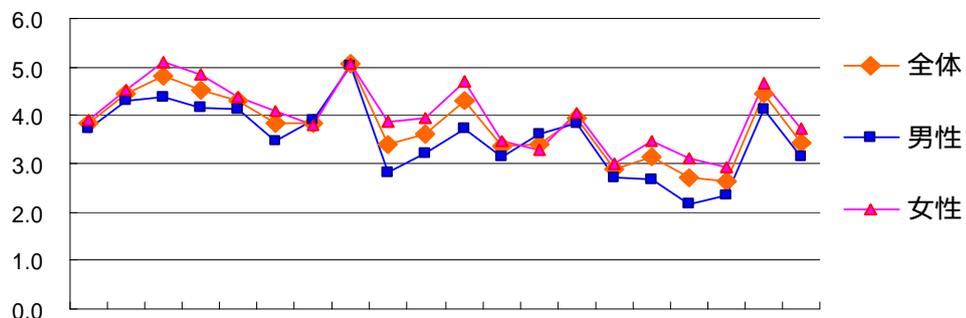
施策についての今後の重要度についてたずねたところ、重要度が高いと考えている施策は「 防災・安全活動の充実」、「 身近な学習施設の整備・充実」、「 身近なところでの学習機会の充実」、「 中核的な公共施設の整備・充実」、「 高齢者を対象とした学習機会の提供」、「 情報提供の充実」などがあげられ、「重要である」と「まあまあ重要である」を合わせた重要だと思う人の割合はそれぞれ6割近くになっています。一方、比較的重要度が低いと考えている施策は「 大学等の公開講座の充実」、「 学んだことを発表、活かす場の提供」があげられます。

施策の重要度 (n=1,012)



性別による比較をみるために、取組・施策に対する「今後の重要度」についての評価を一層明確化するため、次の算出方法により各取組・施策の「重要度指数」を設定し、下図のようにグラフ化しました。

生涯学習に関する施策の今後の重要度



$$\text{「重要度指数」} = [(\text{高い}) \times 10 + (\text{やや高い}) \times 5 + \text{どちらともいえない} \times 0 - (\text{やや低い}) \times 5 - (\text{低い}) \times 10] / \text{回答者数}$$

性別にみると、生涯学習に関する各取組・施策に対する傾向は、ほとんどの施策で女性の満足度が高くなっていますが、女性より男性が重要としている施策には、「スポーツ・レクリエーション活動の機会充実」や「指導者・リーダーの養成」、「ボランティアの育成や活動推進」があげられます。

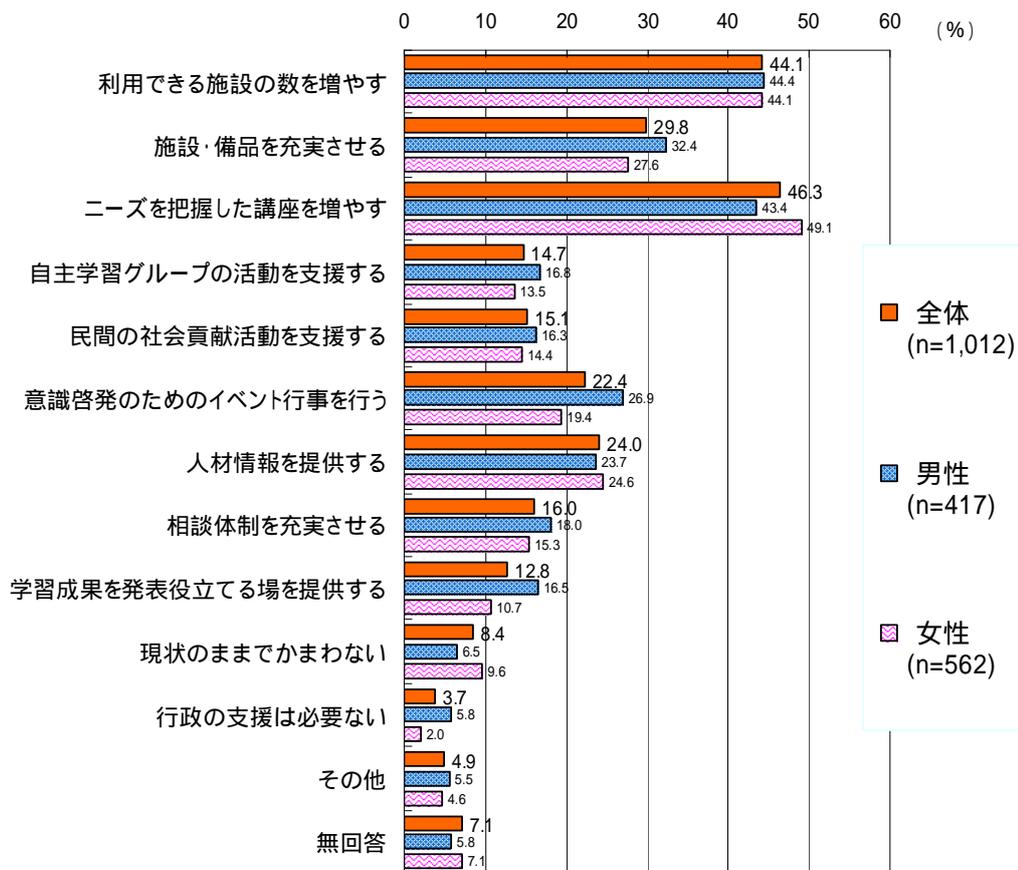
男性と女性の認識の違いが大きい項目は、「高齢者を対象とした学習機会の提供」や「職業能力を身につける学習機会の提供」、「身近な学習施設の設備・充実」などがあげられます。

生涯学習の振興に必要な施策

問 15 生涯学習を盛んにするためには、どのようなことが大切だと思いますか。(複数回答)

生涯学習の振興に必要な施策は、「ニーズを把握した講座を増やす(46.3%)」が最も多く、次いで「利用できる施設の数を増やす(44.1%)」、「施設・備品を充実させる(29.8%)」となっています。一方、「行政の支援は必要ない(3.7%)」は最も少なくなっています。

生涯学習の振興に必要な施策 (全体・性別)



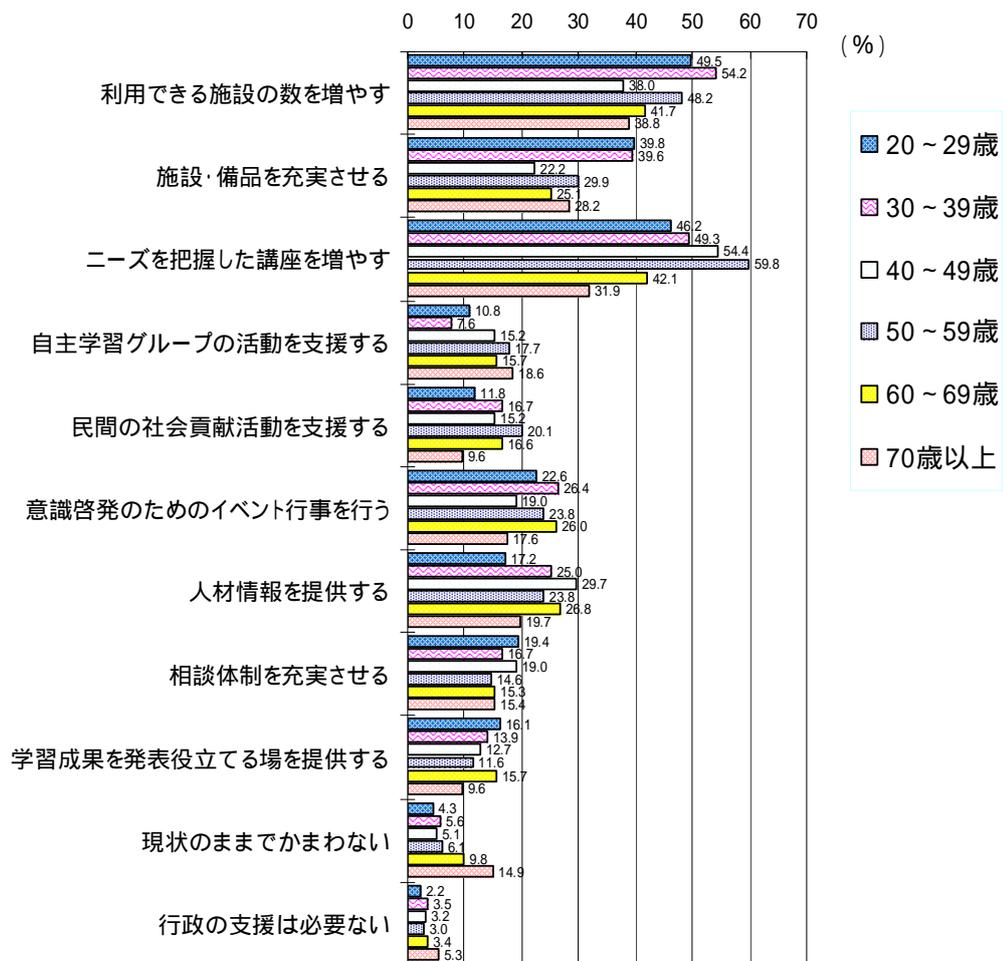
性別にみると、男性は「利用できる施設の数を増やす(44.4%)」、女性は「ニーズを把握した講座を増やす(49.1%)」が最も高くなっています。

また、男性が女性より必要な施策と考える項目に「意識啓発のためのイベント行事を行う(26.9%)」、「学習成果を発表、役立てる場を提供する(16.5%)」をあげ、女性は「ニーズを把握した講座を増やす(49.1%)」をあげ、性別によって認識の違いがうかがえます。

年齢別にみると、「ニーズを把握した講座を増やす」が20～29歳代から50～59歳代において割合が高くなっていますが、60～69歳代、70歳以上の年代で大きく減っています。

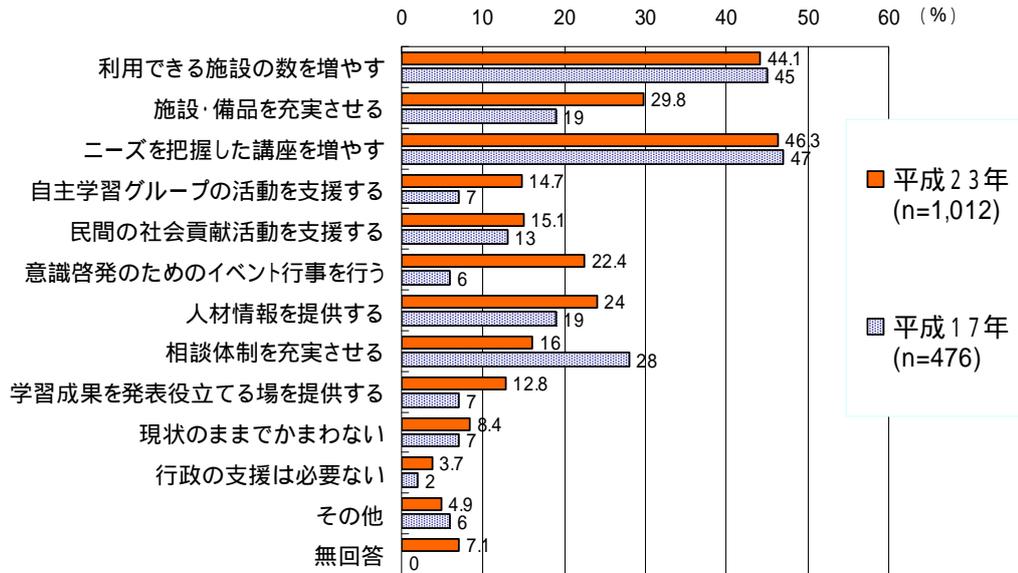
また、「自主学習グループの活動を支援する」や「現状のままでかまわない」は、年代があがるにつれて高くなる傾向がうかがえます。

生涯学習の振興に必要な施策（年齢別）



前回調査と比較すると、ほぼ同じような傾向がみられますが、「相談体制を充実させる(16.0%)」が8ポイント減り、「意識啓発のためのイベント行事を行う(22.4%)」と「施設・備品を充実させる(29.8%)」が大きく10ポイント以上高くなっています。

生涯学習の振興に必要な施策（比較）



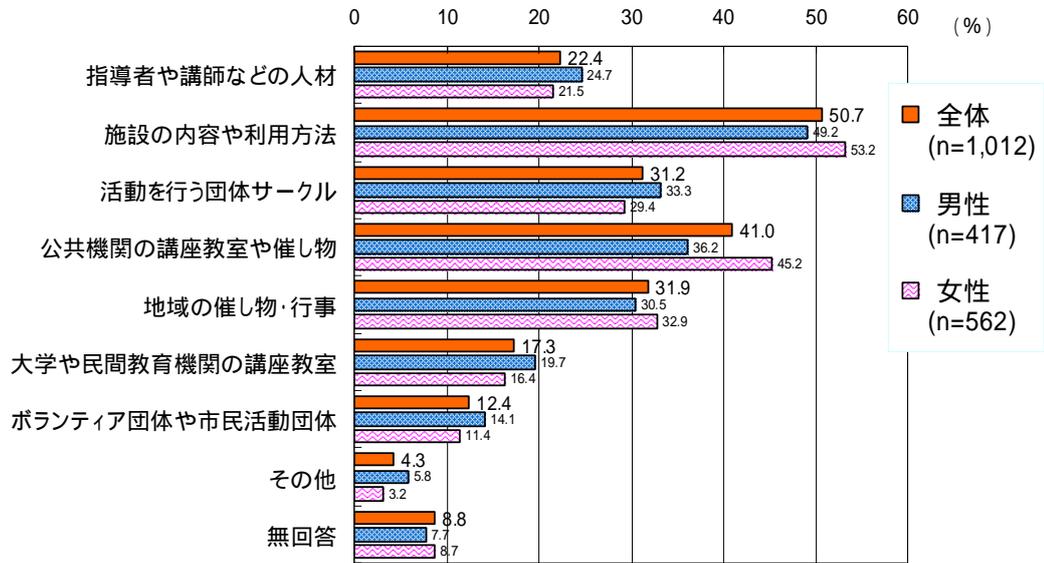
生涯学習活動に取り組むための必要な情報

問 16 生涯学習に関する活動を行う上で、どのような情報を得たいと思いますか。（複数選択）

生涯学習活動に取り組むために得たい情報については、「施設の内容や利用方法(50.7%)」が最も高く、次いで、「公共機関の講座教室や催し物(41.0%)」、「地域の催し物・行事(31.9%)」、「活動を行う団体・サークル(31.2%)」となっています。

性別にみると、男性・女性ともに「施設の内容や利用方法(男性49.2%、女性53.2%)」が最も高くなっています。また、男性は「活動を行う団体・サークル(33.3%)」や「指導者や講師などの人材(24.7%)」などの情報を望む割合が女性よりも高く、女性は「公共機関の講座教室や催し物(45.2%)」や「施設の内容や利用方法(53.2%)」を望む割合が高くなり、男女での差があらわれています。

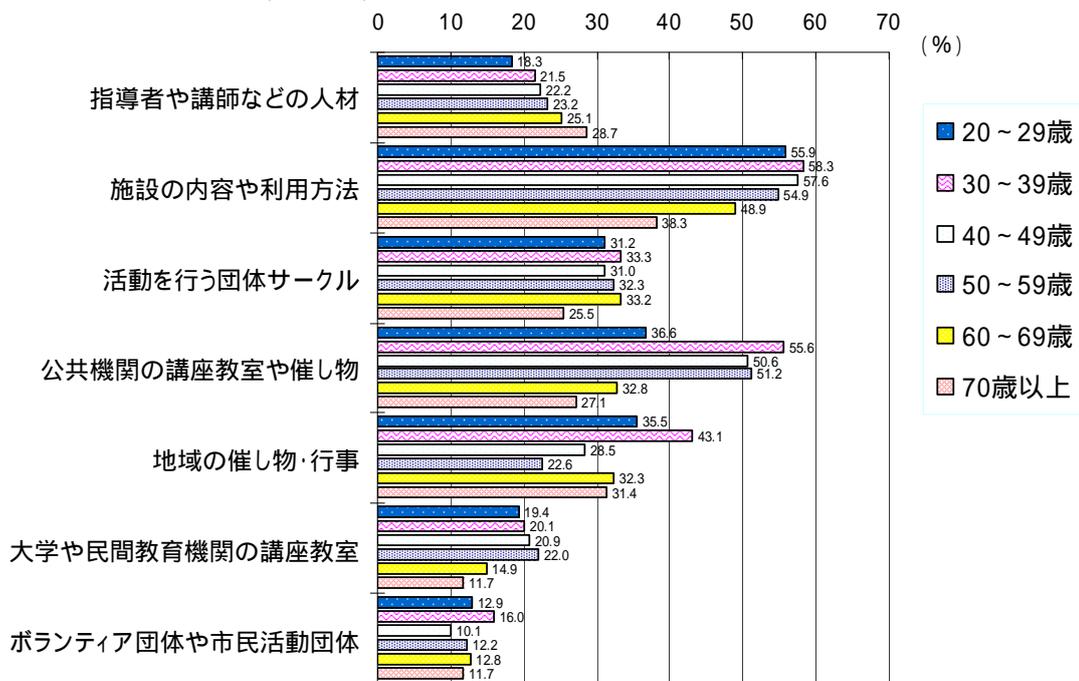
必要な情報（全体・性別）



年齢別にみると、「施設の内容や利用方法」が20～29歳代から50～59歳代にかけて割合が高くなっていますが、60～69歳代、70歳以上の年代で大きく減っています。

また、「指導者や講師などの人材」を望む割合が、年代があがるにつれて高くなる傾向がうかがえます。

必要な情報（年齢別）



(3) 今後の生涯学習活動における重点課題

近所付き合いの程度

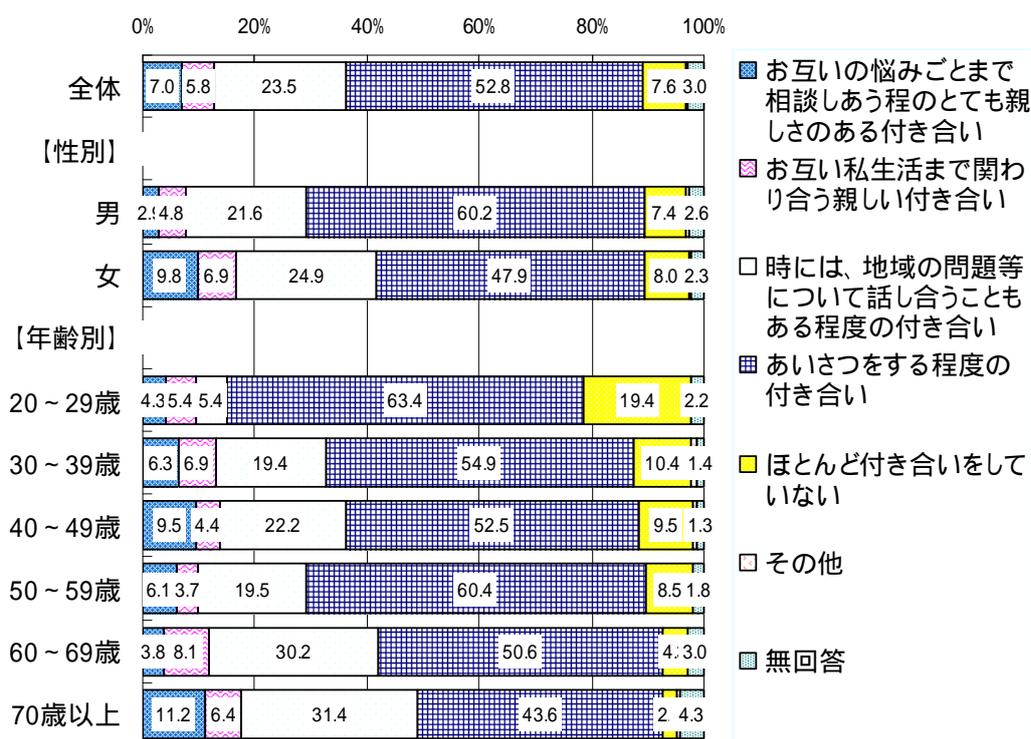
問 17 近所の人たちとの付き合いはどの程度行っていますか。

近所付き合いの程度については、「あいさつをする程度の付き合い(52.8%)」が最も高く、次に「時には、地域の問題について話し合うこともある程度の付き合い(23.5%)」となっています。一方、「ほとんど付き合いをしていない(7.6%)」と回答された方が1割弱あり、地域の緊密さが薄い傾向がうかがわれます。

性別にみると、男性が女性より近所付き合いの程度が薄くなっています。

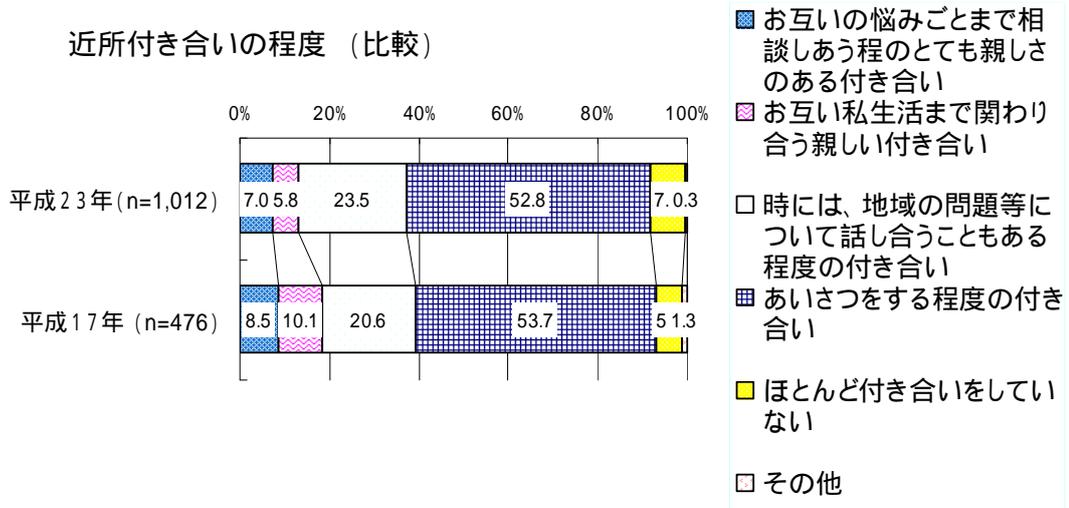
年齢別にみると、年代が高くなるにつれて近所付き合いの程度が深くなっています。一方、20～29歳の年代で「ほとんど付き合いをしていない(19.4%)」を約2割の人が答えています。

近所付き合いの程度 (全体・性別・年齢別)



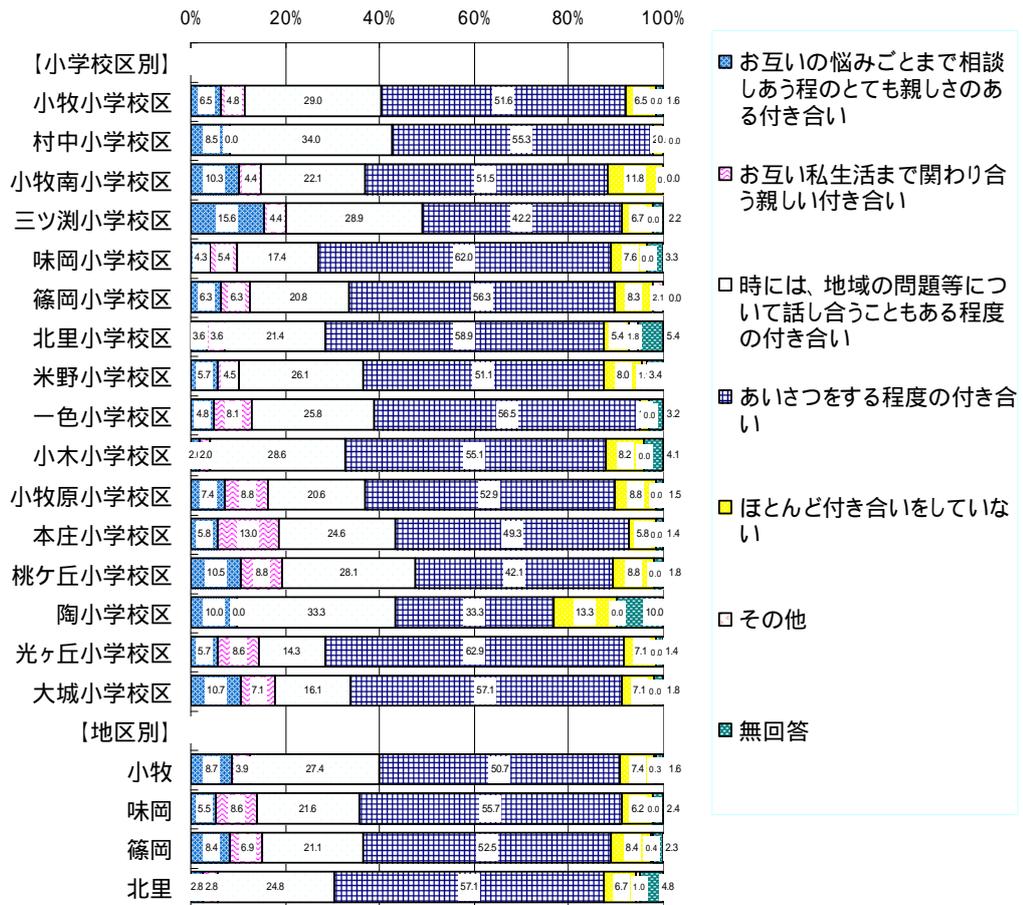
前回の調査と比較して、若干、近所付き合いの程度が薄くなっている傾向がうかがえます。

近所付き合いの程度（比較）



小学校区別にみた近所付き合いの程度は次のようになっています。

近所付き合いの程度（地区別）



学校と家庭・地域の連携

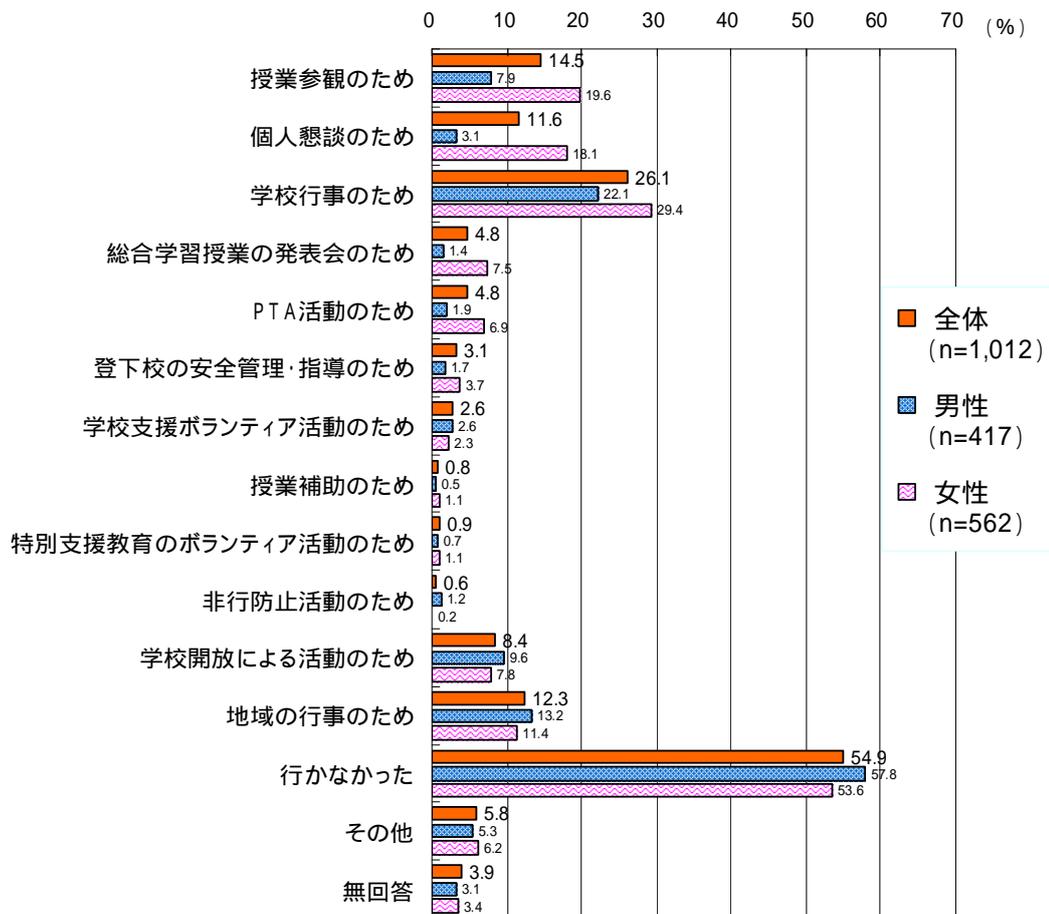
問 18 この一年間に、どんな目的で地域にある小学校や中学校へ行きましたか。(複数回答)

学校と家庭・地域のつながりを見るために、地域の学校に出かけた目的をたずねたところ、半数以上(54.9%)の方は、この一年間に学校には行かなかったと回答しています。

学校に行った人の目的では、「学校行事のため(26.1%)」が最も多く、次いで「授業参観のため(14.5%)」、「地域の行事のため(12.3%)」、「個人懇談のため(11.6%)」となっています。学校や地域の行事があれば学校に行く機会はあるが、それ以外の目的で学校へ行く人は少ないと考えられます。

性別にみると、学校に行った人の目的としてあがった上記項目では、女性の方が男性より7～15ポイント高くなっています。男性が高くなっている項目には、「学校開放による活動のため」、「地域行事のため」、「学校支援ボランティア活動のため」があげられます。

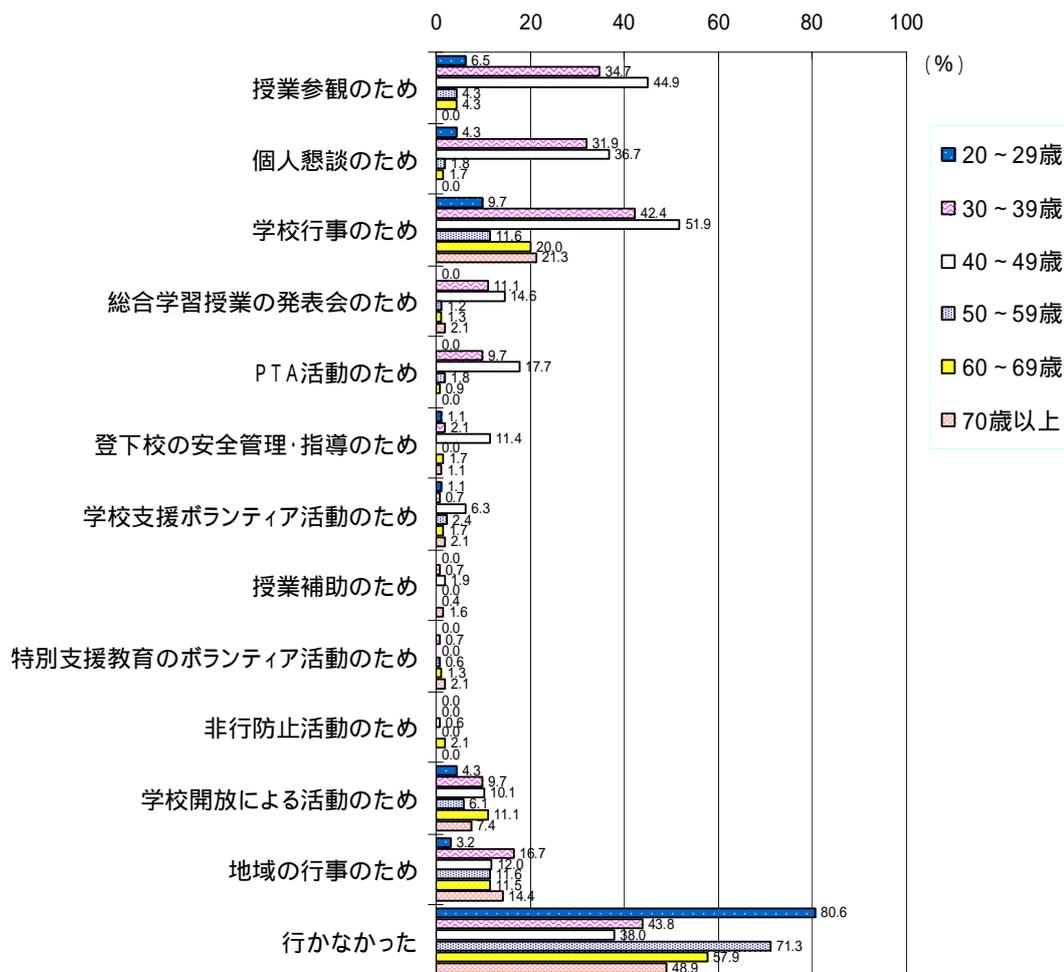
学校と家庭・地域の連携 (全体・性別)



年齢別にみると、30～39歳、40～49歳の年代において、「学校行事のため」、「授業参観のため」、「個人懇談のため」に学校に行ったという方が顕著に高くなっています。

各年代ともに約1割の方が「地域行事のため」、「学校開放による活動のため」に学校に行っていることがうかがえます。

学校と家庭・地域との連携（年齢別）



地域にある課題

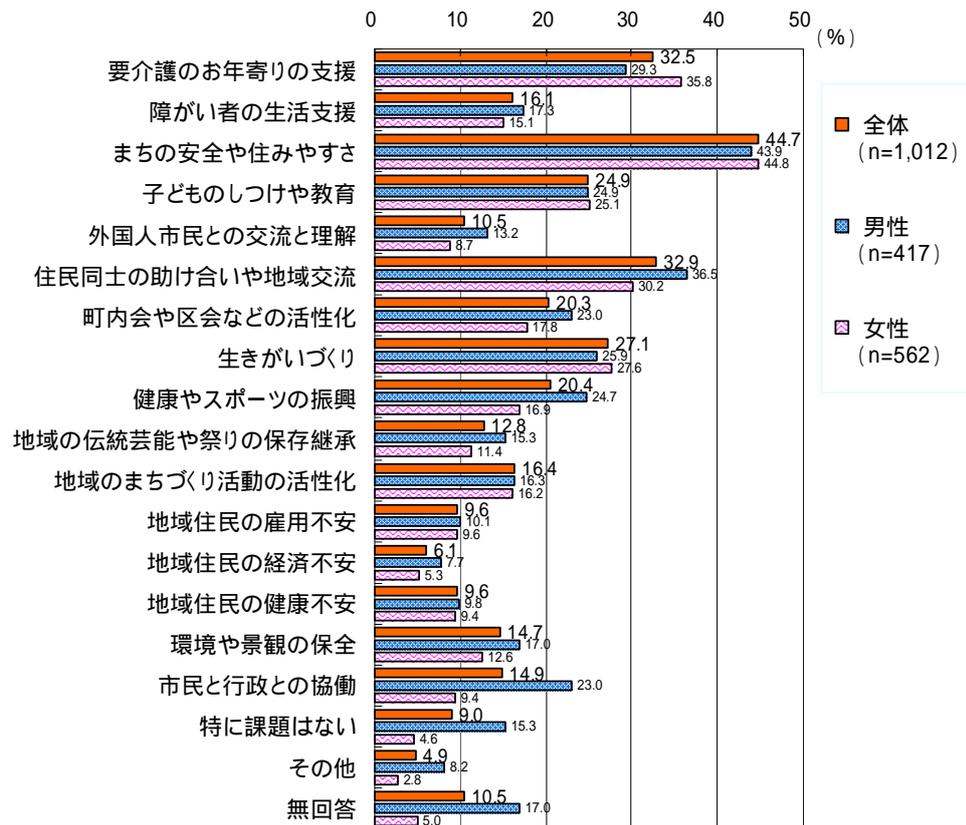
問 19 地域にどのような課題があると考えていますか。（複数回答）

地域にどのような課題があると考えているのかについては、「まちの安全や住みやすさ(44.7%)」が最も高く、次いで「住民同士の助け合いや地域交流(32.9%)」、「要介護のお年寄りの支援(32.5%)」となっています。

性別にみると、男性、女性ともに「まちの安全や住みやすさ(男性43.9%、女性44.8%)」が最も高くなっています。

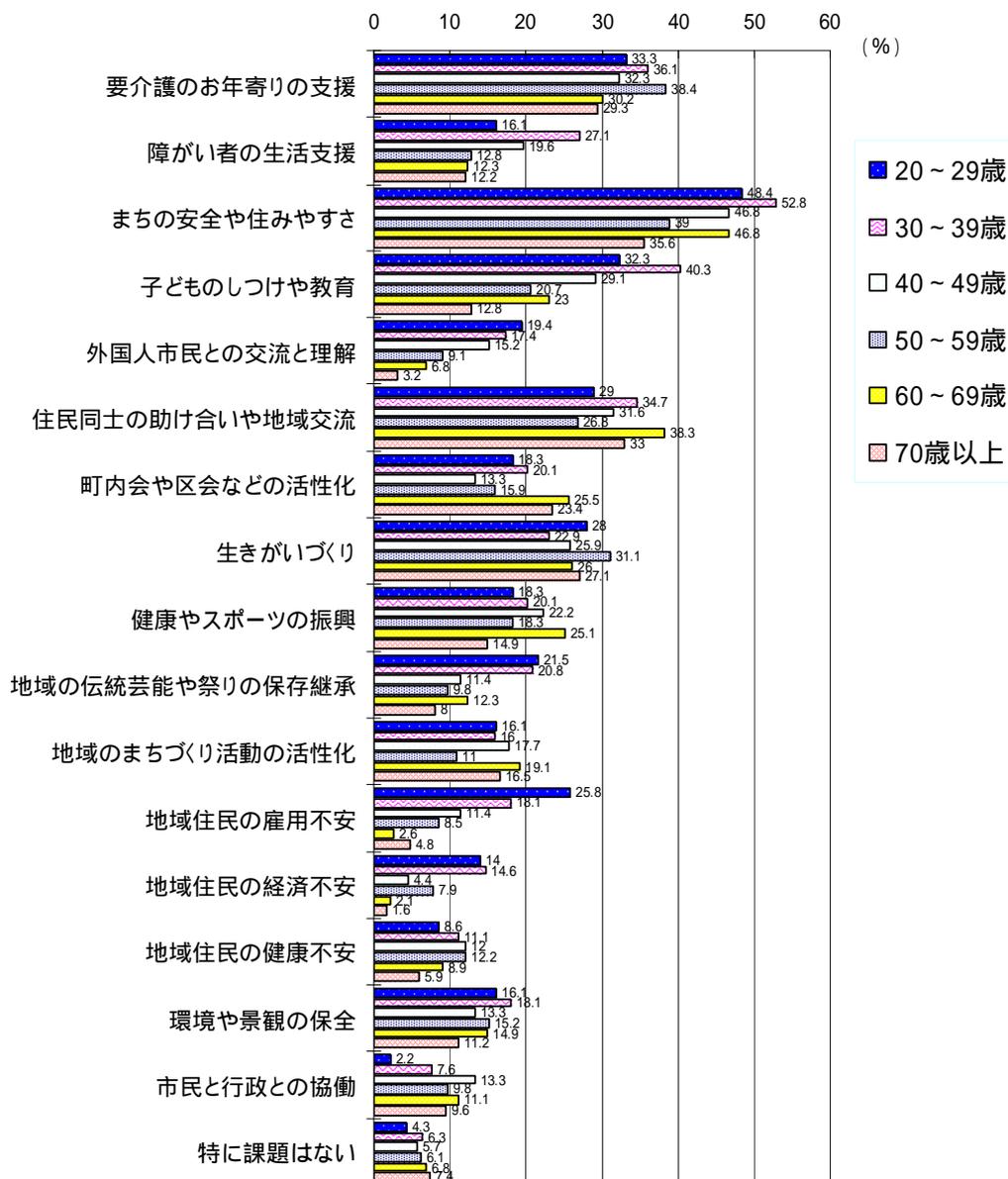
また、男性は「健康やスポーツの振興(24.7%)」、「住民同士の助け合いや地域交流(36.5%)」、「外国人市民との交流と理解(13.2%)」が女性より4.5~7.8ポイント高く、女性は「要介護のお年寄りの支援(35.8%)」が男性よりも6.5ポイント高くなっています。

地域にある課題（全体・性別）



年齢別にみると、全ての年代において「まちの安全や住みやすさ」が最も高くなっています。20~29歳では、「地域住民の雇用不安」、「外国人市民との交流と理解」が他の年代に比べて高くなっています。また、20~29歳や30~39歳において「地域住民の経済不安」も高くなっています。

地域にある課題（年齢別）



社会活動への取り組みの意向

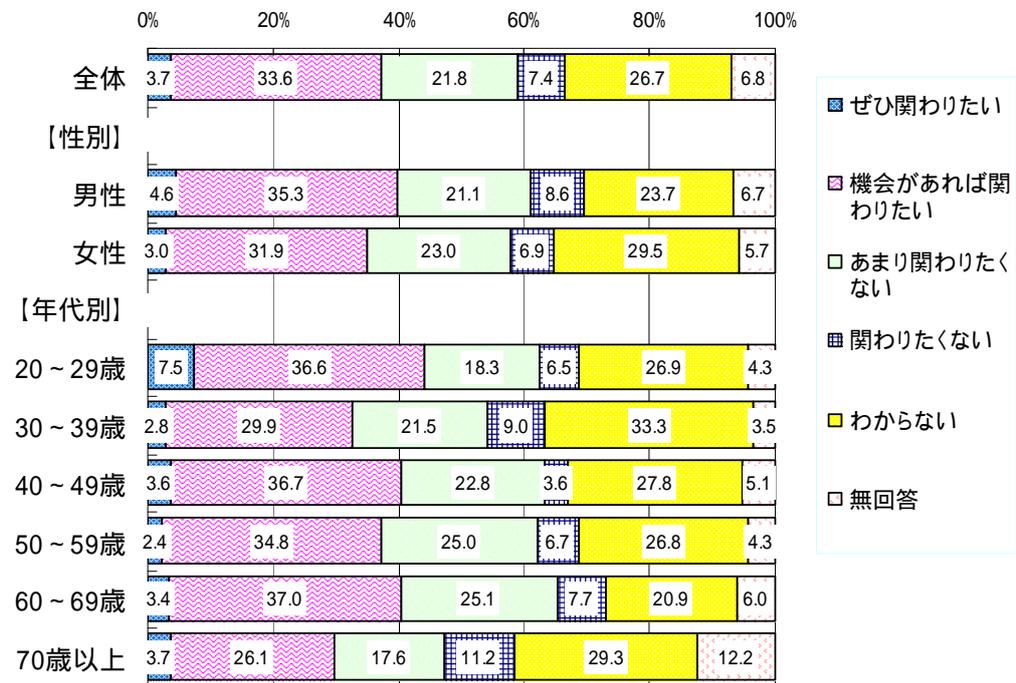
問 20 社会活動の「支援や指導」に関わってみたいと思いますか。

社会活動の「支援や指導」に関わってみたいと思うかについては、「ぜひ関わりたい(3.7%)」と「機会があれば関わりたい(33.6%)」の計である37.3%の方が関わりたいと答えています。

性別にみると、大きな差はないが、関わりたいと答えた方は、女性(34.9%)よりも男性(39.9%)のほうが5ポイント高くなっています。

年代別には、関わりたいと答えた方は、20代・40代・60代において4割を超えています。

社会活動への取り組み意向（全体・性別・年齢別）



21 社会活動に参加できる内容
問 20 で「ア」「イ」と答えた方に質問

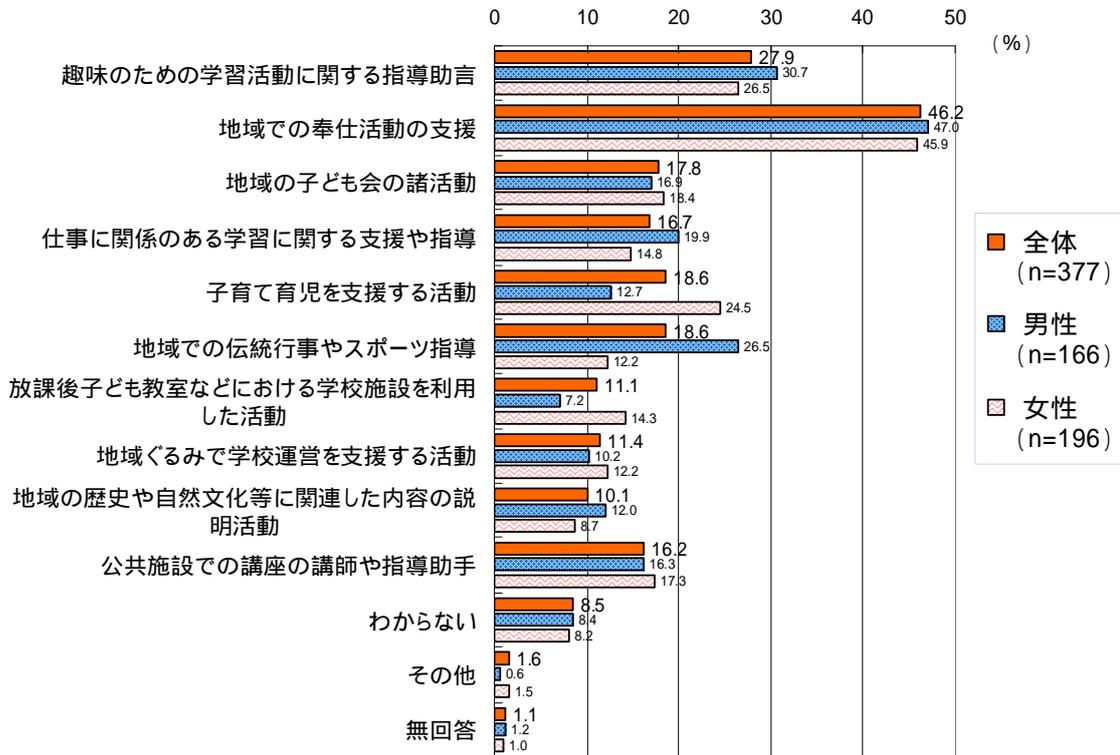
問 21 社会活動の「支援や指導」に関わってみたいと考えられる内容は何ですか。（複数回答）

社会活動の「支援や指導」に関わってみたいと考えられる内容については、「地域での奉仕活動の支援(46.2%)」が最も高く、次いで、「趣味のための学習活動に関する指導助言(27.9%)」、「地域での伝統行事やスポーツ指導(18.6%)」、「子育て育児を支援する活動(18.6%)」となっています。

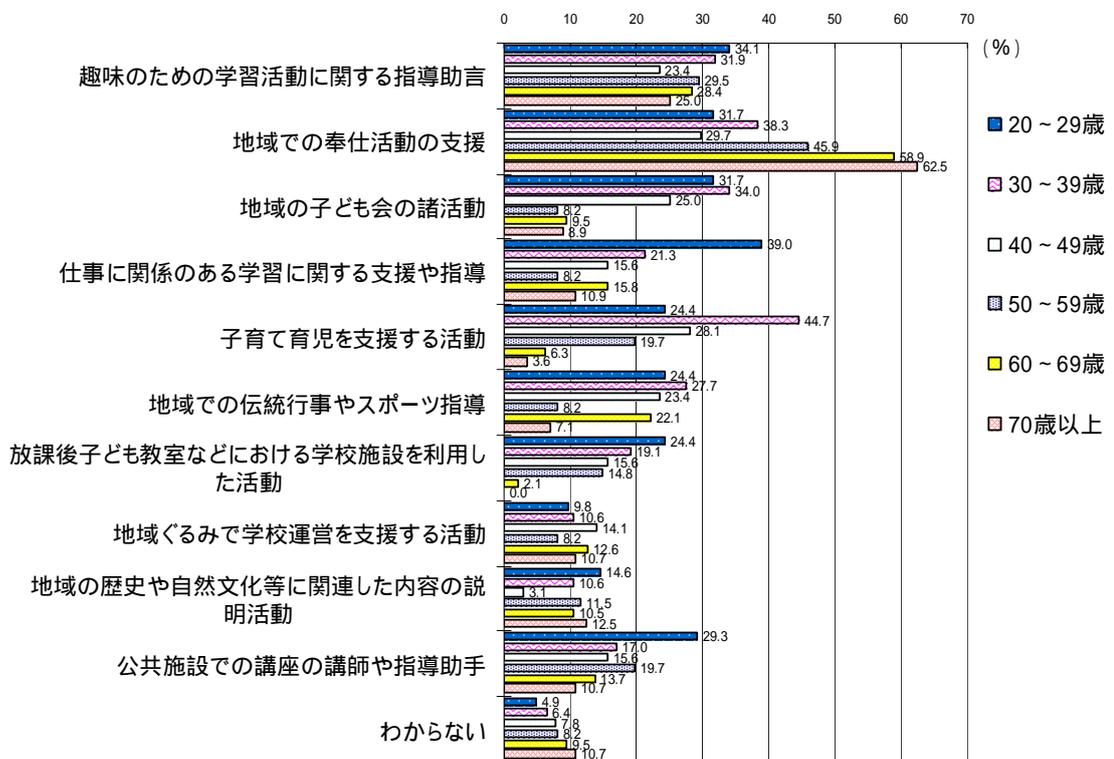
性別にみると、男性、女性ともに「地域での奉仕活動の支援(男性47.0%、女性45.9%)」が最も高くなっています。また、男性は「地域での伝統行事やスポーツ指導」、「仕事に関係のある学習に関する支援や指導」が女性よりも5ポイント以上高く、女性は「子育て育児を支援する活動」、「放課後子ども教室などにおける学校施設を利用した活動」が男性より7ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、20～29歳は「仕事に関係のある学習に関する支援や指導(39.0%)」、30～39歳は「子育て育児を支援する活動(44.7%)」が高い割合となっています。

社会活動に参加できる内容（全体・性別）



社会活動に参加できる内容（年齢別）



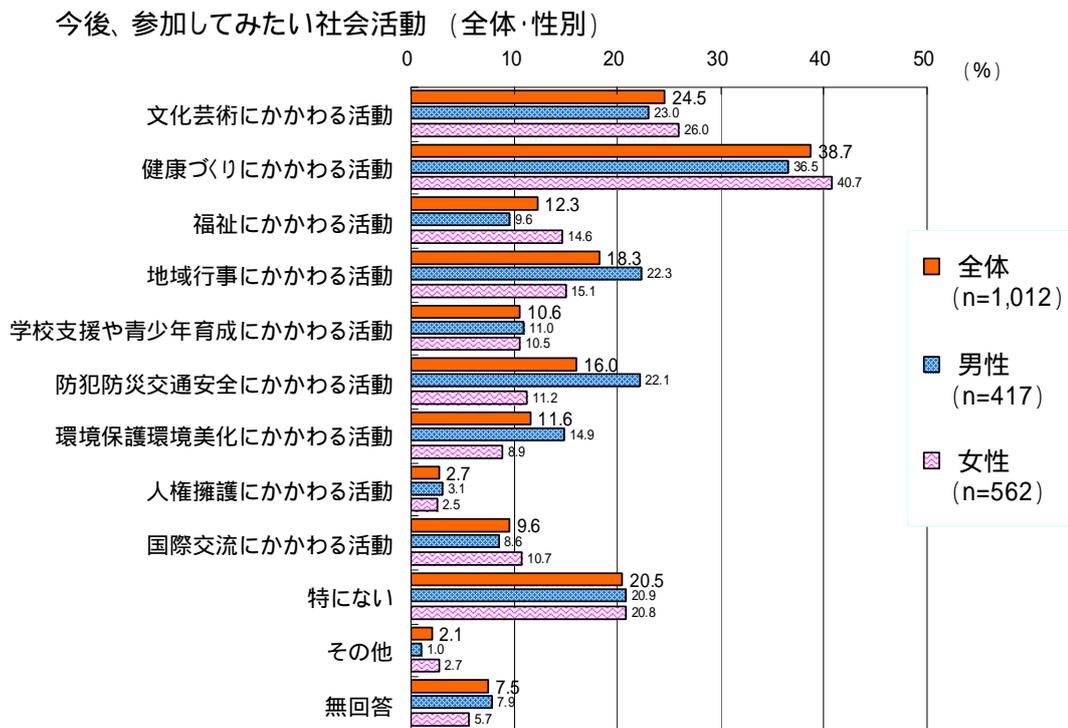
22 今後参加してみたい社会活動

問 22 今後参加してみたい社会活動はどのような活動ですか。(複数回答)

今後参加してみたい社会活動については、「健康づくりにかかわる活動(38.7%)」が最も高く、次いで、「文化芸術にかかわる活動(24.5%)」、「地域行事にかかわる活動(18.3%)」となっています。

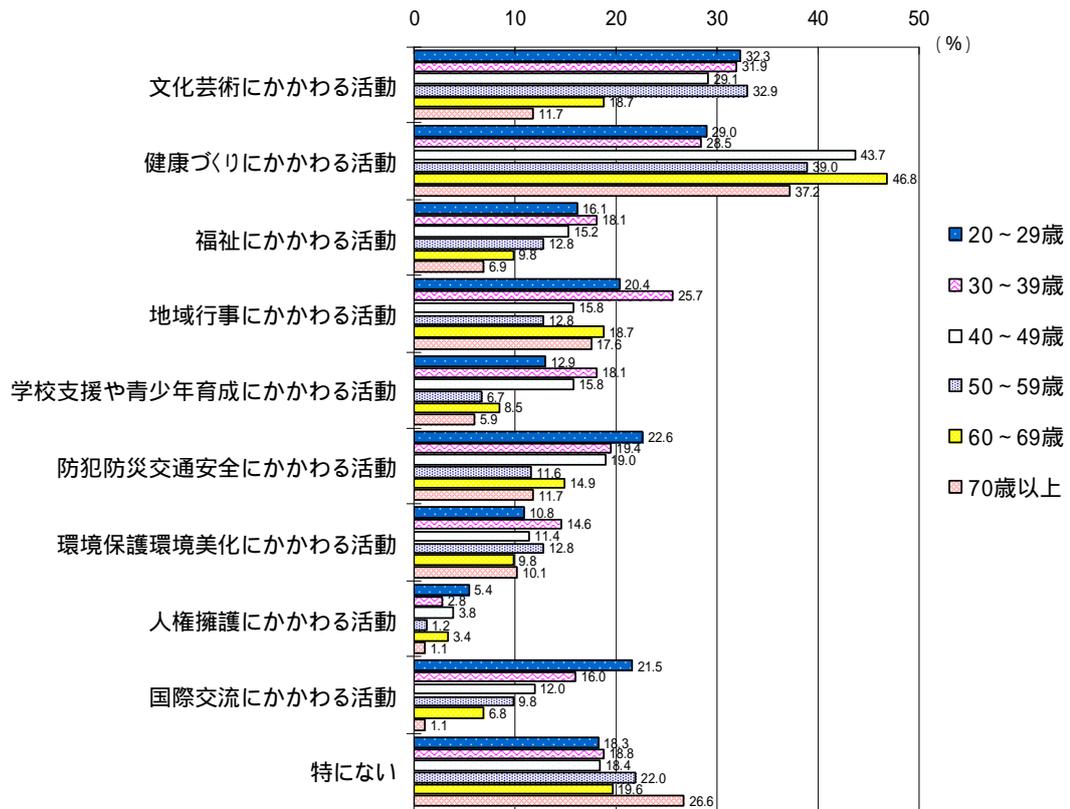
性別にみると、男性、女性ともに「健康づくりにかかわる活動(男性 36.5%、女性 40.7%)」が最も高くなっています。

また、男性は「防犯防災・交通安全にかかわる活動」、「地域行事にかかわる活動」、「環境保護・環境美化にかかわる活動」が女性よりも6ポイント以上高く、女性は「福祉に関わる活動」、「健康づくりにかかわる活動」が男性より4ポイント以上高くなっています。



年齢別にみると、20～29歳と30～39歳は「文化芸術にかかわる活動」が最も高い割合となっています。また、「福祉にかかわる活動」、「国際交流にかかわる活動」に対する参加意向は、年代が高くなるにつれて減少するなど意識の違いがうかがえます。

今後 参加してみたい社会活動（年齢別）



23 参加を妨げる要因

問 23 地域の活動への参加を妨げる要因は何と考えられますか。（複数回答）

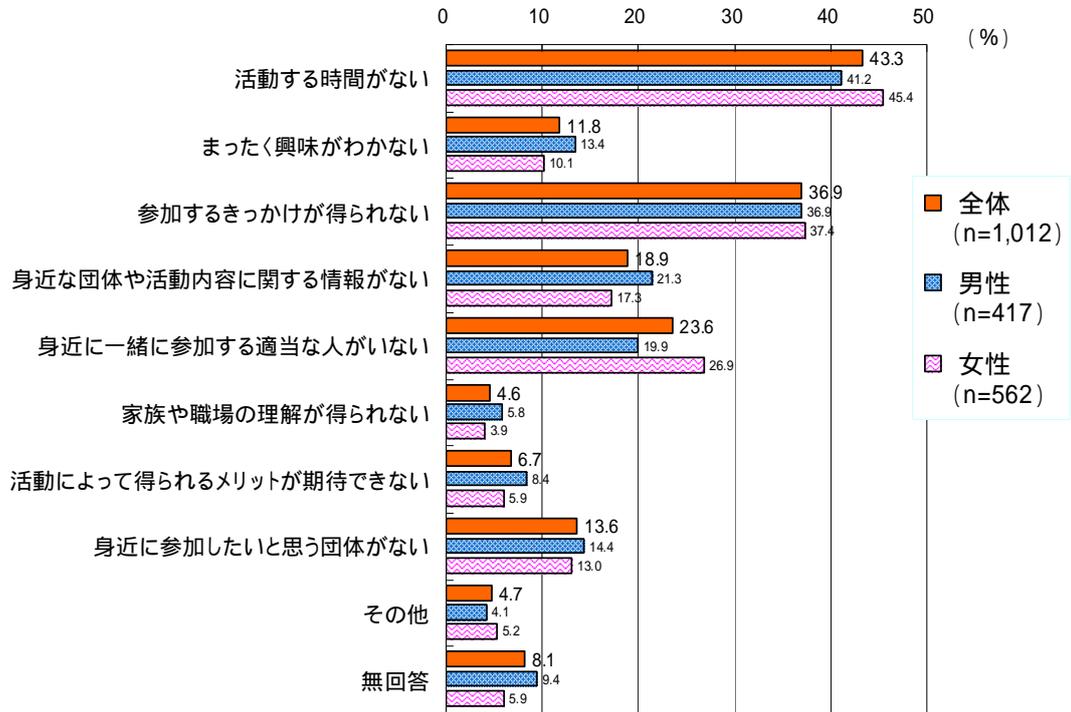
地域活動への参加を妨げる要因については、「活動する時間がない(43.3%)」が最も高く、次いで、「参加するきっかけが得られない(36.9%)」、「身近に一緒に参加する適当な人がいない(23.6%)」となっています。

性別にみると、男性、女性ともに「活動する時間がない(男性41.2%、女性(45.4%))」が最も高く、男性は「身近な団体や活動内容に関する情報がない」が女性よりも4ポイント高く、女性は「身近に一緒に参加する適当な人がいない」が男性より7ポイント高くなっています。

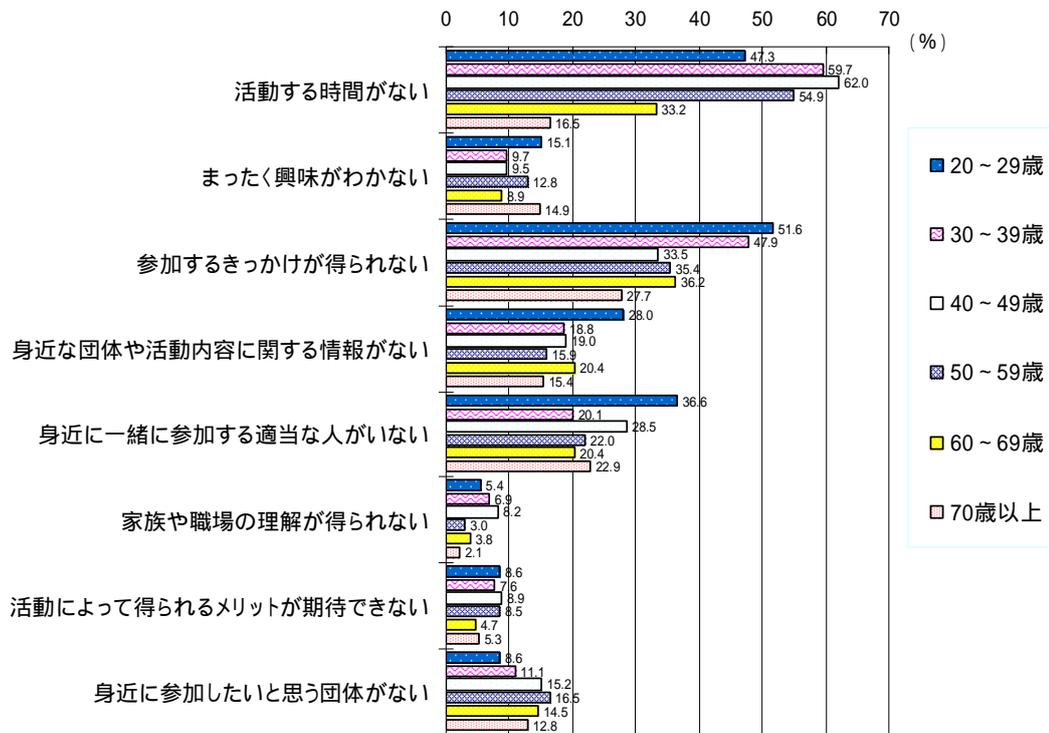
年齢別にみると、20～30歳代が「参加するきっかけが得られない(51.6%)」を一番の要因とし、「活動する時間がない(47.3%)」だけではなく「身近に一緒に参加する適当な人がいない(36.6%)」も阻害理由としてあげています。

また、地域活動への参加を妨げる要因として、若い年代層ほど「参加するきっかけが得られない」としています。

地域活動への参加を妨げる要因（全体・性別）



地域活動への参加を妨げる要因（年齢別）



24 施策の満足度と今後の重要度の相関

市における主な取組・施策について、「満足度」(問9)と「重要度」(問14)についての評価を一層明確化するため、次の算出方法により各取組の「満足度指数」と「重要度指数」を設定し、縦軸に重要度指数、横軸に満足度指数を尺度として分布図を作成しました。

【満足度指数と重要度指数の算出方法】

$$\text{「満足度指数」} = [(\text{満足}) \times 10 + (\text{やや満足}) \times 5 + (\text{どちらともいえない}) \times 0 + (\text{やや不満}) \times (-5) + (\text{不満}) \times (-10)] / \text{回答者数}$$

$$\text{「重要度指数」} = [(\text{高い}) \times 10 + (\text{やや高い}) \times 5 + (\text{どちらともいえない}) \times 0 + (\text{やや低い}) \times (-5) + (\text{低い}) \times (-10)] / \text{回答者数}$$

【例】 『 講座、講演会などの種類や数の充実』 の場合

	満足 (10点)	まあまあ満足 (5点)	どちらともいえない (0点)	やや不満 (-5点)	不満 (-10点)	合計	満足度指数 得点/件数
件数	31	223	527	66	22	869	1.01
得点	310	1115	0	-330	-220	875	

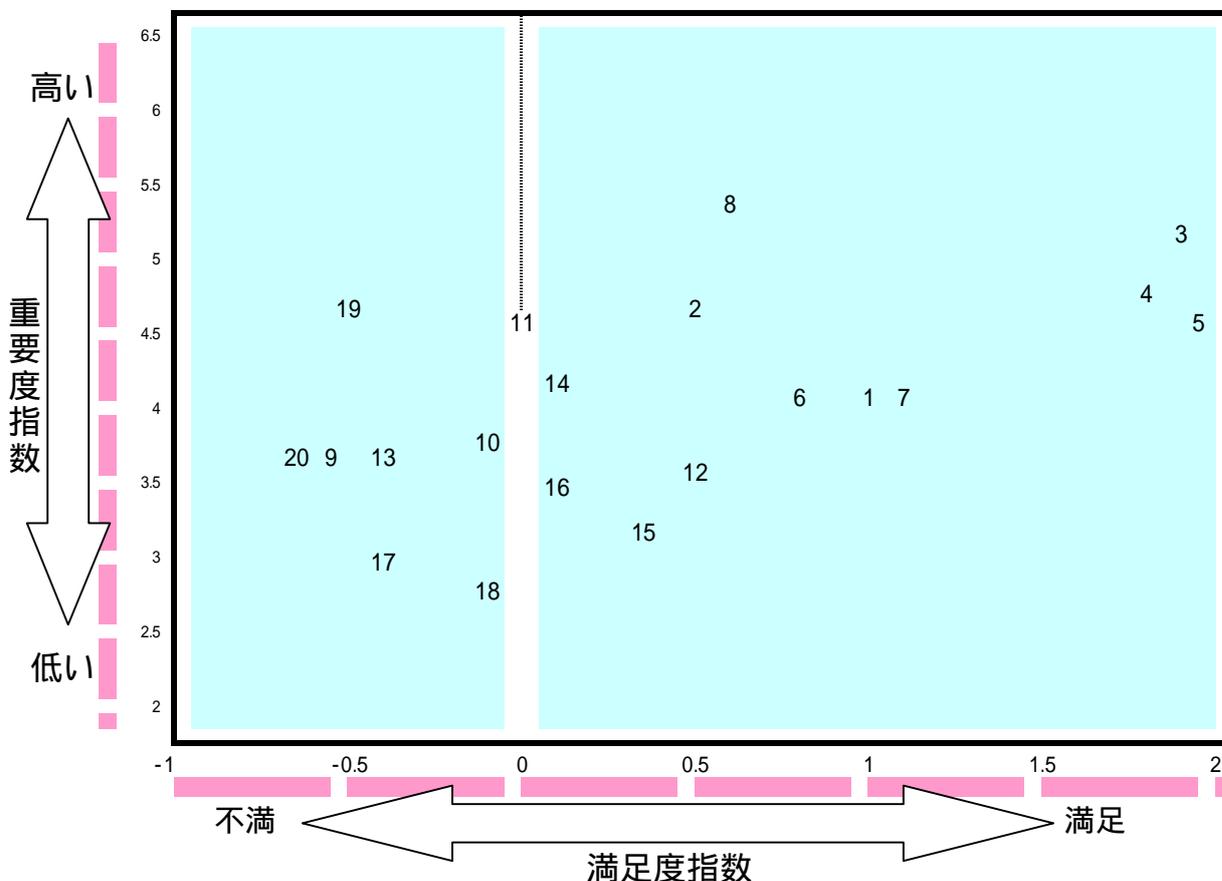
【各施策の満足度指数と重要度指数】

区 分	満足度指数	重要度指数
講座、講演会の充実	1.0	3.8
身近なところでの学習機会の充実	0.5	4.4
身近な学習施設の整備・充実	1.9	4.8
中核的な公共施設の整備・充実	1.8	4.5
体育施設の整備・充実	2.0	4.3
芸術・文化活動の機会充実	0.8	3.8
スポーツ・レクリエーション活動の機会充実	1.1	3.8
防災・安全活動の機会の充実	0.6	5.1
職業能力を身につける学習機会の提供	-0.6	3.4
家庭教育の向上につながる学習機会の提供	-0.1	3.6
高齢者を対象とした学習機会の提供	0.0	4.3
地域の教育力向上につながる学習機会の提供	0.5	3.3
指導者・リーダーの養成	-0.4	3.4
ボランティアの育成や活動推進	0.1	3.9
各種団体・グループの活動支援や交流促進	0.3	2.9
学校における生涯学習活動に対する指導推進	0.1	3.1
大学等の公開講座の充実	-0.4	2.7
学んだことを発表、活かす場の提供	-0.1	2.6
情報提供の充実	-0.5	4.5
相談体制の充実	-0.7	3.4

平均 0.39 3.79

【各施策の満足度と重要度の分布図】

施策の満足度と今後の重要度の相関



満足度、重要度がともに高い施策・事業としては、「身近な学習施設の整備・充実」、「中核的な公共施設の整備・充実」、「体育施設の整備・充実」があげられます。

満足度が高いが、重要度が比較的低い施策・事業としては、「各種団体・グループの活動支援や交流促進」、「学校における生涯学習活動に対する指導推進」があげられます。

重要度が高いが、満足度の低い施策・事業としては、「情報提供の充実」、「相談体制の充実」、「職業能力を身につける学習機会の提供」、「指導者・リーダーの養成」、「大学等の公開講座の充実」があげられます。特に「相談体制の充実」については、満足度が最も低くなっており、事業の強化などの改善が求められます。